

木島平村
第7次総合振興計画
(素案)

令和6年4月

木島平村 総務課

目次

第1章 序論	1
【1】計画の概要.....	1
1. 計画策定の趣旨.....	1
2. 計画の構成と期間.....	2
【2】計画策定の背景.....	3
1. 木島平村を取り巻く環境の変化.....	3
2. 統計からみた木島平村.....	5
3. 村民ニーズ.....	13
4. 木島平村の現状と課題.....	18
第2章 基本構想	24
【1】将来像.....	24
【2】基本目標.....	25
第3章 基本計画	26
【1】施策体系.....	26
【2】重点プロジェクト.....	27
【3】取組内容.....	29
【基本目標①】安心して子育てでき誰もが学び続けられる.....	30
1-1 総合的な子育て環境の充実.....	31
1-2 木島平型教育の推進.....	33
1-3 保育・幼児教育の推進.....	36
1-4 文化活動の推進と文化財の活用.....	37
1-5 生涯学習の推進.....	38
【基本目標②】いきいきと健やかに暮らせる.....	39
2-1 みんなで支え合う地域づくり.....	40
2-2 地域医療体制の充実.....	42
2-3 健康長寿の村づくりの推進.....	43
【基本目標③】多様な産業が活力を生み出す.....	45
3-1 滞在型観光の推進.....	46
3-2 商工業の振興と新しい産業の創出.....	48
3-3 地域資源を活用した特産物のブランド化.....	49
3-4 農業の振興.....	51

3-5 森林の活用.....	53
【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる	54
4-1 安全で円滑な交通インフラ整備の推進	55
4-2 誰もが安心して暮らせる村づくり	56
4-3 情報発信の強化	58
4-4 移住定住の促進	59
4-5 空き家対策の推進	61
4-6 地球温暖化防止対策の推進.....	62
4-7 環境保全とごみ減量化・リサイクルの推進	64
【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る.....	65
5-1 持続可能な集落活動の推進	66
5-2 人権が尊重される村づくりの推進	68
5-3 村民とともに進める村づくり	69
5-4 時代に適合した行財政運営の推進.....	70
5-5 姉妹都市「調布市」との交流促進.....	71
5-6 関係人口の創出	73
5-7 下高井農林高校との連携.....	74
【4】計画の進捗管理および検証	75

第1章 序論

【1】計画の概要

1. 計画策定の趣旨

木島平村は、平成16（2004）年3月に合併をせずに自立を宣言しました。これを受けて、平成17（2005）年4月から始まる「1人ひとりの“ずく”と“協働”でつくる村づくり」を基本理念とする第5次総合振興計画を策定し、村民との協働を高める政策を基に産業振興や福祉対策を行ってきました。

平成27（2015）年度から令和6（2024）年度までの10年間を期間とした第6次総合振興計画では「これからの農村を生きる～みんなで楽しみを作り出す村～」をスローガンとしました。これは木島平村という農村を生きるにあたって、活動の原動力となる“楽しみ”を生み出しながら、住みやすい村を実現させていくという意味が込められています。

一方、我が国では、世界に類をみない急速なペースで人口減少・少子高齢化が進行しており、また、人口が減少する中で、東京圏を中心とした都市と地方との転出入格差はいまだ続いており地方の過疎化や地域産業の衰退等が大きな課題となっています。さらに、令和元（2019）年12月に最初の感染者が中国で確認された新型コロナウイルスは、わが国では令和2（2020）年1月に初めて確認されて以降、感染が拡大し、観光業など地方経済を支える産業への打撃や地域コミュニティの弱体化など、地方の経済・社会へ大きな影響を与えました。

当村においても例外ではなく、一層進む少子高齢化や税収の減少等、地方自治体を取り巻く環境はますます厳しい状況となることが予測される一方で、価値観やライフスタイルの変化にともない村民ニーズも多様化していくものと考えられます。

今後、木島平村における自主・自立の村づくりを改めて考えたとき、村民と村が将来像を共有し、その実現に向けて村民・区・企業・団体など多種多様な参加と協働により、総合的かつ計画的に村づくりを進めることの重要性は、今まで以上に高まるものと考えます。

このような認識のもと、現行の木島平村第6次総合振興計画の計画期間終了後、木島平村の計画行政における中心的な役割を担う計画として、令和7（2025）年度を初年度とする木島平村第7次総合振興計画を策定するものです。

2. 計画の構成と期間

総合振興計画は、「基本構想」・「基本計画」・「実施計画」・「地区づくり計画」からなります。

(1) 構成

基本構想

木島平村の目標とすべき将来像及びその実現のための基本方針を示したもの。

基本計画

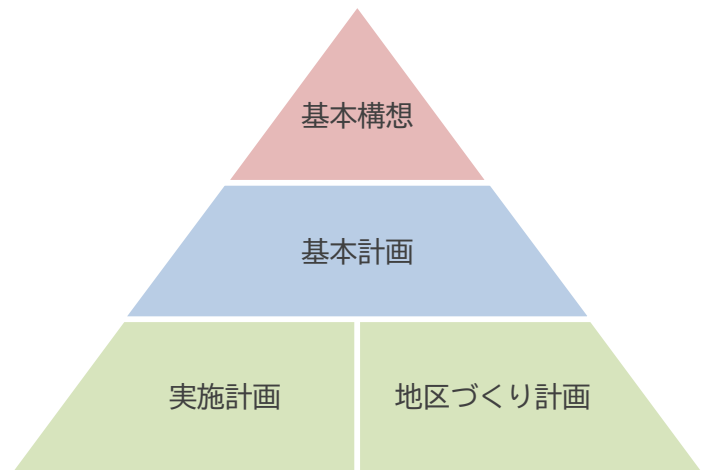
基本構想に則し、その基本方針を具現化するための基本的な施策を体系的に示したもの。

実施計画

基本計画で示した計画の基本的な方向と施策に基づき、毎年度実施する主要な事業について示したもの。

地区づくり計画

地区における将来像とそれを実現するための地区づくり事業を示し、毎年度実施する事業について示したもの。



(2) 期間

基本構想の計画期間は、令和7（2025）年度から令和14（2032）年度までの8年間とします。

基本計画は、前期4年間、後期4年間に分けて策定します。

実施計画および地区づくり計画は、ともに計画期間は4年とし、毎年度見直しを行います。

構成	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)
基本構想	基本構想（8年間）							
基本計画	基本計画（前期4年間）				基本計画（後期4年間）			
実施計画 地区づくり計画	計画（ローリング）							
		計画（ローリング）						
			（以降毎年見直し）					

【2】計画策定の背景

1. 木島平村を取り巻く環境の変化

(1) 人口減少・少子高齢化の急速な進行

我が国では、急速なペースで人口減少・少子高齢化が進行しています。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（令和5年推計）」によると、総人口は今後も長期的に減少していき、令和2（2020）年の1億2,615万人から、36年後の令和38（2056）年には1億人を割って9,965万人となり、令和52（2070）年には8,700万人にまで減少するものと見込まれています。これに加え、高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は、令和52（2070）年にかけて上昇が続く見通しとなっています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」によれば、本村では今後も国を上回るペースで人口減少・少子高齢化が進行することが予想されています。

人口減少・少子高齢化の進行は、経済規模の縮小や生活水準の低下、社会保障の負担増や制度維持など、社会経済の全般にわたって深刻な影響を及ぼすことが懸念されるほか、特に人口減少が急速に進む地方部では、日常生活の維持に必要な不可欠な、地域における支え合いの機能が低下していく可能性も想定されます。

(2) 社会経済活動の変化

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、各国は感染拡大防止のため、社会経済活動や人の移動を制限せざるを得ず、経済への打撃は甚大なものとなりました。その一方で、感染症の影響により、デジタル・オンラインの活用が進み、時間と場所に捉われない働き方が可能になるとともに、テレワークやワーケーションが普及したことで、多地域居住・多地域就労が現実のものとなったこともあり、東京圏への転入超過数が減少するなど、人の流れに変化がみられました。感染症拡大直後にみられた新たな人の流れは、一部感染症前に回帰する動きがみられるものの、地方移住への関心は引き続き高い状態にあります。

また、感染症を契機とした社会経済活動における変化として、テレワーク等による働き方の変化の他に、オンライン消費やオンライン教育、オンライン診療といったデジタル化の広がりがみられました。こうした中、国は、デジタルを地方で暮らす上での地理的に不利な条件を解消する有効な手段として位置づけ、各種施策を加速化・深化させています。

（3）気候非常事態の宣言と再生可能エネルギー活用の推進

近年、気候変動が一因と考えられる異常気象が世界各地で発生しています。我が国においても、台風災害や線状降水帯による激甚な豪雨、猛暑が頻発しており、長野県内では「令和元年東日本台風」による甚大な被害がもたらされました。

こうした気象災害等を背景に、長野県では令和元（2019）年に「気候非常事態」を宣言するとともに、徹底的な省エネルギーと再生可能エネルギーの普及拡大の推進等に取り組むことで令和32（2050）年には二酸化炭素排出量を実質ゼロ（ゼロカーボン）とする決意を示しました。また、令和2（2020）年9月時点で、本村を含む県内全77市町村がこれに賛同しており、県民一体となった持続的発展に向けた取り組みが期待されています。

本村では、平成24（2012）年に定めた「自然・再生可能エネルギーの利活用方針」を取組の指針として、小水力を活用した村営馬曲発電所を運営しているほか、太陽光・バイオマス・雪冷熱といった村内に賦存する自然エネルギーの活用に関する検討を進めています。

（4）ライフスタイルや地域コミュニティのあり方の変化

感染症をきっかけとしたテレワーク等の働き方の変化もあり、首都圏の若年層を中心に、仕事を重視し都市部での生活を選ぶ価値観から、地方での生活重視のライフスタイルを選択する価値観が広がりつつあります。このような価値観の変化を追い風に、移住定住を促進する上では、地域の魅力の一つとして、温かみのある良質な地域コミュニティも重要な要素と言えます。

令和4年度に実施した地域実態調査の結果をみると、村内の区長が、集落を活性化するためには移住者を受け入れる取組が最も重要と回答するなど、本村では地域コミュニティにおける移住者受入の機運が高いことが伺えます。

しかしながら、人口減少や高齢化等により地域の担い手が不足することに伴い、地域コミュニティの活力が失われつつあります。令和4（2022）年度に実施した地域実態調査では、約6割の村民が、集落で行っている活動や作業について「実施が困難になる」と回答しています。今後、地域活動をどのように継承していくか、活動のあり方の見直しも含めて検討していく必要があります。

2. 統計からみた木島平村

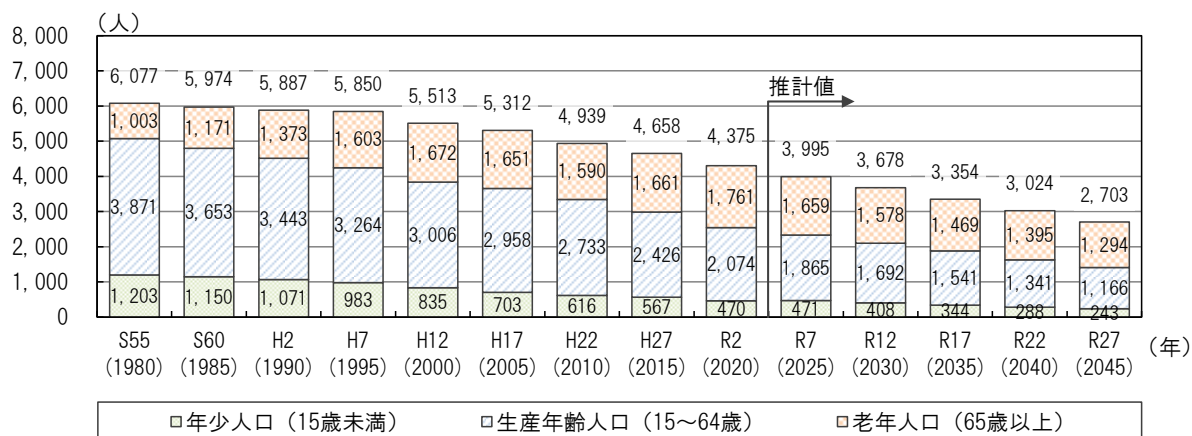
(1) 人口動態

総人口・人口構成

令和2年国勢調査によると木島平村の人口は4,375人であり、昭和55(1980)年以降減少が続いています。国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計によると、令和7年以降も人口減少が継続する見込みです。

年齢3区分別人口構成比をみると、令和2(2020)年において65歳以上の老年人口は40.3%と約4割を占めています。また、「生産年齢人口」は47.4%と約半数を占めています。社人研の推計によると、令和22(2040)年には「老年人口」が「生産年齢人口」を上回る見込みです。

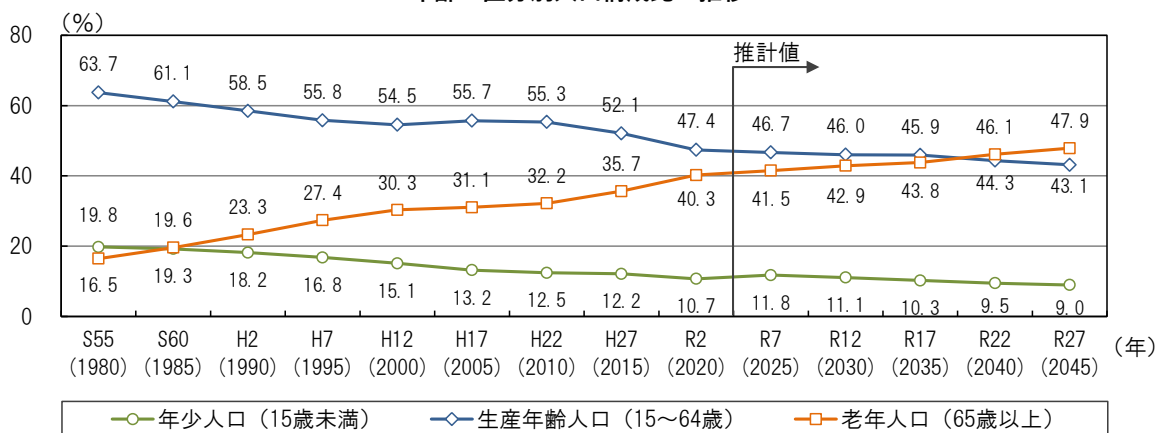
総人口・年齢3区分別人口の推移



(資料) 内閣府・経済産業省「地域経済分析システム-RESAS」(総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」)

(注) 年齢「不詳」があるため、年齢3区分別人口の合計が総人口と一致しない場合がある。

年齢3区分別人口構成比の推移

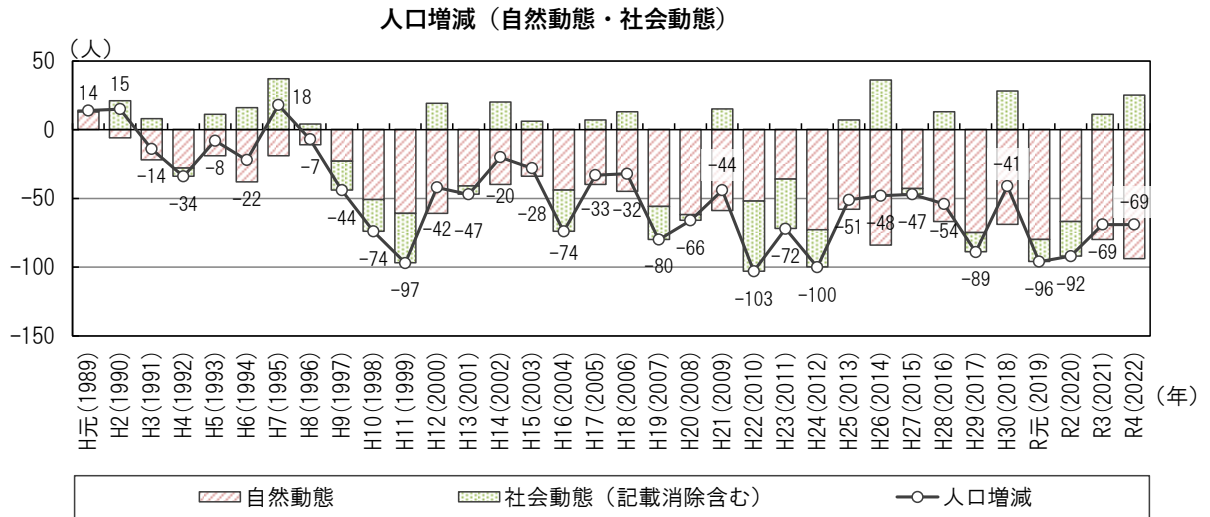


(資料) 内閣府・経済産業省「地域経済分析システム-RESAS」(総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」)

(注) 年齢「不詳」があるため、年齢3区分別人口構成比の合計が100%にならない場合がある。

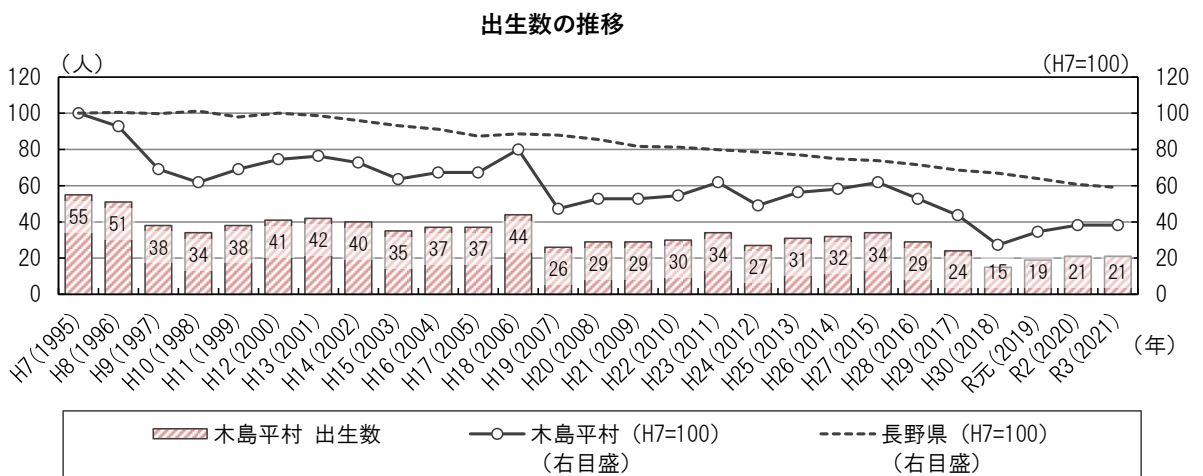
人口増減の要因として、「自然動態(出生数-死亡数)」「社会動態(転入者数-転出者数等)」をみると、平成2(1990)年以降「自然動態」のマイナスが継続しており、長期的には「自然動態」のマイナス幅が拡大傾向にあります。

「社会動態」がプラスとなる年もありますが、「自然動態」がマイナスに転じた平成2(1990)年以降では、平成2(1990)年および平成7(1995)年を除き、「自然動態」のマイナス幅を補うには至らず、人口減少が継続しています。



自然動態

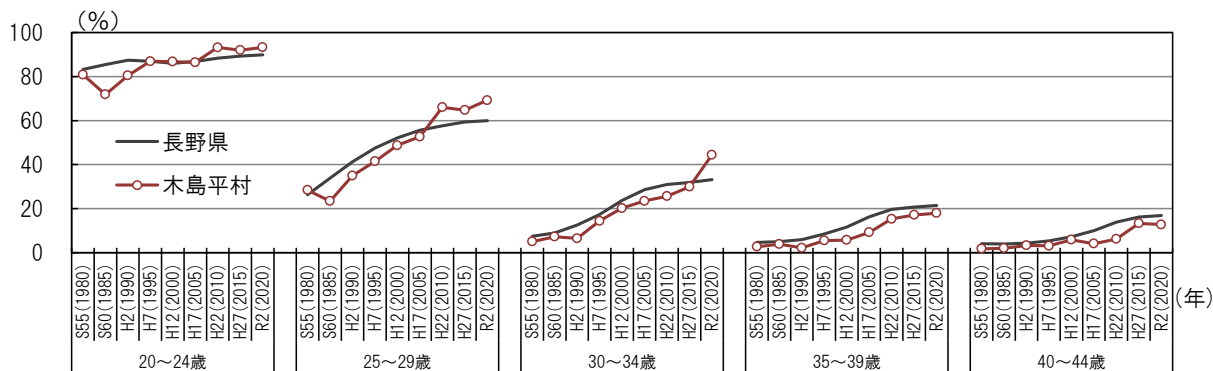
出生数の推移について、平成7(1995)年の出生数を100とした指数にて長野県と比較すると、木島平村は長野県全体に比べ、出生数の減少ペースが早くなっています。



20-44歳の女性の未婚率の状況について5歳階級別にみると、木島平村と長野県のいずれにおいても、全ての年齢階級で未婚率が上昇傾向にあります。

長野県と比較すると、「25～29歳」は平成22(2010)年以降、「30～34歳」は令和2(2020)年に、木島平村が長野県を上回りました。

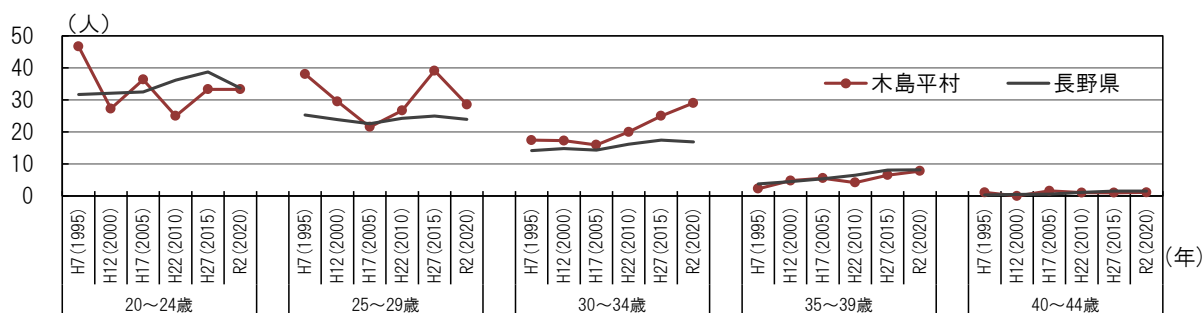
女性 未婚率の推移 (20-44歳) [5歳階級別]



(資料) 総務省「国勢調査」

有配偶女性 100 人当たりの出生数の状況について 5 歳階級別にみると、木島平村では人口規模が長野県と比較して小さいことから年による変動が大きくなっていますが、「25～29歳」では平成17(2005)年を除いて、長野県の水準を上回っています。また、「30～34歳」では、平成7(1995)年以降長野県の水準を上回って推移しており、その差は拡大傾向にあります。

有配偶女性 (20～44歳) 100人当たりの出生数[5歳階級別]



(資料) 総務省「国勢調査」

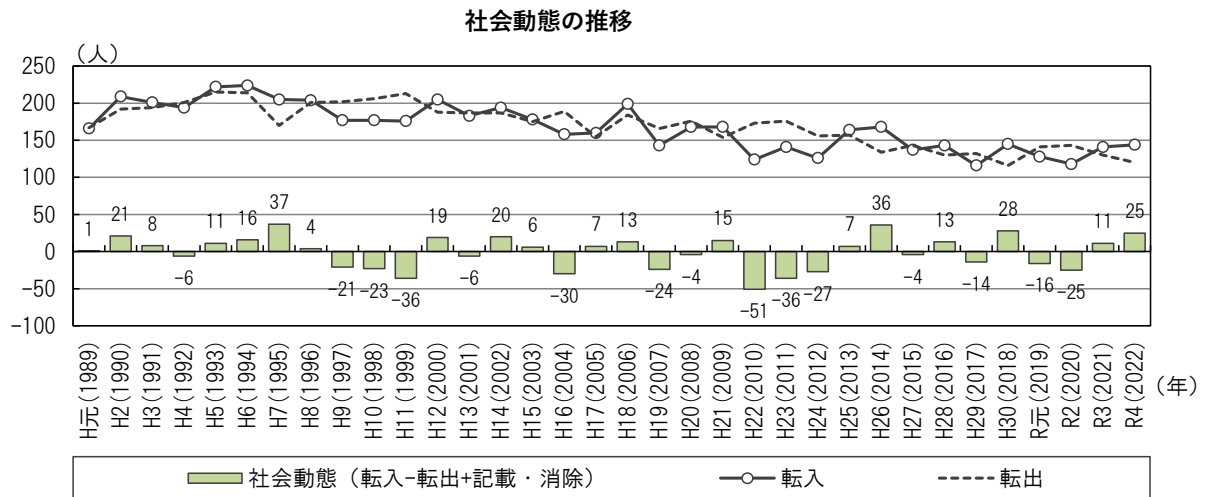
(注) 有配偶女性 (X～X+4歳) 100人当たりの出生数：

$X \sim X+4$ 歳の母親による出生数 / $X \sim X+4$ 歳の女性のうち「有配偶」である者の人口 $\times 100$

社会動態

社会動態をみると、転入・転出のいずれも、長期的には減少傾向にあります。

年によって変動はありますが、直近では令和3（2021）年および令和4（2022）年の2年連続で転入が転出を上回り、社会動態がプラスとなっています。

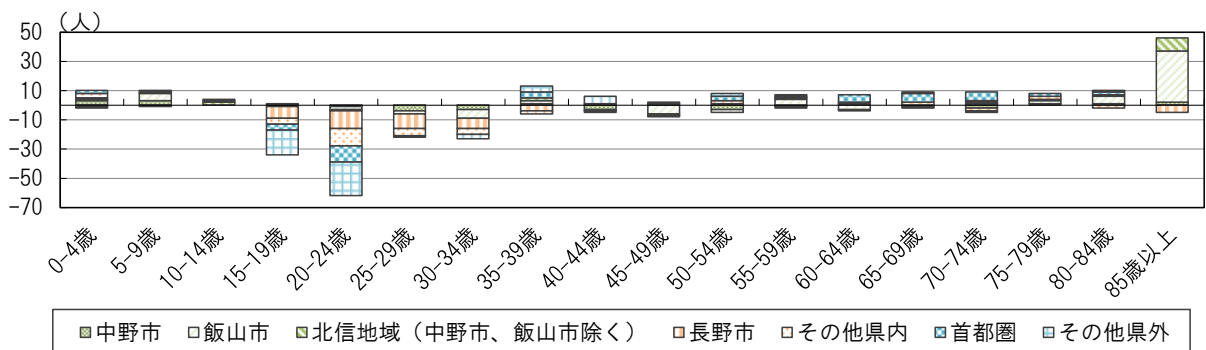


(資料) 長野県「毎月人口異動調査」

(注) 「記載・消除」は省略。

年齢別・地域別の転出入の状況を把握するため、令和2（2020）年における、5年前および現在の常住市町村による転入と転出の差から算出した転入超過数をみると、「15-19歳」から「30-34歳」においては、転出超過の状態となっています。中でも、進学や就職の時期と重なる「15-19歳」「20-24歳」は超過幅が特に大きく、「首都圏」や「その他県外」、「長野市」等へ若者が転出している状況が読み取れます。

5年前および現在の常住市町村による転入超過数（令和2年）



(資料) 総務省「国勢調査」

(注) 転入 : 5年前は木島平村以外に常住していたが、現在は木島平村に常住している者

転出 : 5年前は木島平村に常住していたが、現在は木島平村以外に常住している者（国勢調査では、日本国内に常住している者を調査対象としていることから、5年前の常住地が「木島平村」であり現在の常住地が「国外」である者の人口は捕捉出来ないことに留意。）

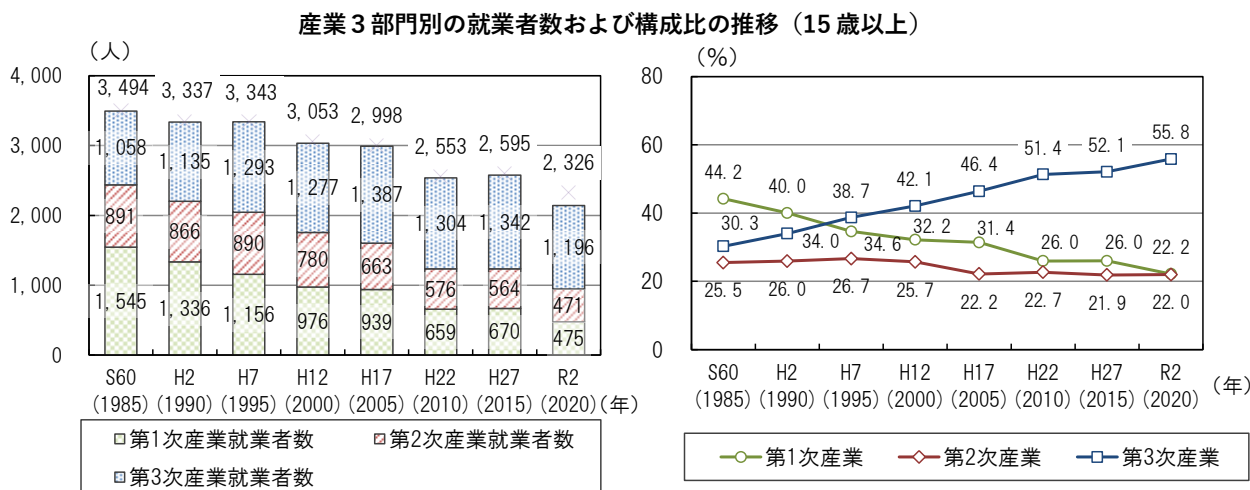
転入超過 : [転入-転出]にて算出。（上記の通り、転入と転出で「国外」に対する取り扱いに違いがあることから、地域別の転入超過のみを算出し、転入超過総数は算出していません。）

北信地域 : 中野市、飯山市、山ノ内町、野沢温泉村、栄村

首都圏 : 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

(2) 産業

木島平村に常住している15歳以上の就業者数は、昭和60(1985)年以降減少傾向にあります。産業3部門別構成比をみると、「第1次産業」が低下傾向にある一方で、「第3次産業」は上昇傾向にあります。



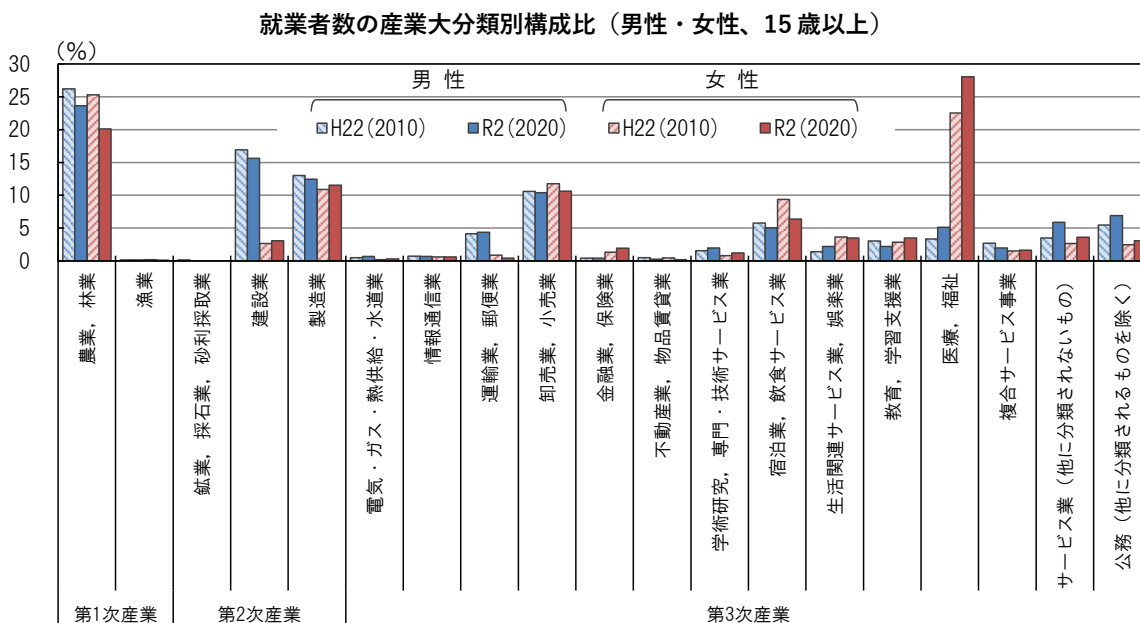
(資料) 総務省統「国勢調査」

(注1) 「分類不能の産業」があるため、産業部門別就業者数の合計が就業者数総数と一致しない場合がある。

(注2) 構成比は「分類不能の産業」を除いて算出。

木島平村に常住している15歳以上の就業者について、男女別に産業別の構成比をみると、男女ともに「農業、林業」の構成比が高くなっています。また、男性は「建設業」、女性は「医療・福祉」への就業割合が高くなっています。

平成22(2010)年と令和2(2020)年を比較すると、男女ともに「農業、林業」が低下しています。男性では、「建設業」が低下傾向にある一方、「サービス業」等が増加傾向にあります。女性では、「卸売業、小売業」や「宿泊業、飲食サービス業」が低下傾向にある一方、「製造業」や「医療、福祉」が上昇傾向にあります。



(資料) 総務省「国勢調査」

(注) 「分類不能の産業」を除いて構成比を算出。

木島平村に「常住」している15歳以上の就業者数を従業地（仕事をしている場所）別にみると、平成17（2005）年から令和2（2020）年で共通して、「木島平村」、「飯山市」、「中野市」、「長野市」、「野沢温泉村」の順に多くなっています。

構成比でみると、平成17（2005）年以降、「木島平村」の割合は低下傾向にあり、木島平村以外へ通勤している「流出口」の割合が上昇傾向にあります。

木島平村に常住する15歳以上の就業者数（従業地別）

	就業者数 (15歳以上)	従業地									
		木島平村	流出口	飯山市	中野市	長野市	野沢温泉村	須坂市	山ノ内町	その他 県内	県外
H17 (2005)	2,998	1,817 (60.6%)	1,181 (39.4%)	554 (18.5%)	297 (9.9%)	155 (5.2%)	54 (1.8%)	34 (1.1%)	38 (1.3%)	42 (1.4%)	7 (0.2%)
H22 (2010)	2,553	1,410 (55.6%)	1,128 (44.4%)	524 (20.6%)	296 (11.7%)	146 (5.8%)	45 (1.8%)	35 (1.4%)	28 (1.1%)	48 (1.9%)	6 (0.2%)
H27 (2015)	2,595	1,427 (55.5%)	1,143 (44.5%)	540 (21.0%)	278 (10.8%)	146 (5.7%)	42 (1.6%)	35 (1.4%)	35 (1.4%)	46 (1.8%)	21 (0.8%)
R2 (2020)	2,326	1,168 (53.3%)	1,023 (46.7%)	467 (21.3%)	262 (12.0%)	144 (6.6%)	38 (1.7%)	36 (1.6%)	22 (1.0%)	44 (2.0%)	10 (0.5%)

（資料）総務省「国勢調査」

（注）流出口：木島平村から木島平村以外へ通勤している者（県内他市町村で従業する者および他県で従業する者）
木島平村に常住する就業者数には、従業地「不詳」、従業市区町村「不詳・外国」（従業地が「他の区・市町村」で通勤の場所（市区町村）が不詳及び外国の者）が含まれるため、木島平村で従業する者と流出口の合計に一致しない場合がある。

木島平村以外の県内市町村は、令和2年時点における上位6市町村を掲載。

木島平村で「従業」している15歳以上の就業者数を常住地別にみると、平成17（2005）年から令和2（2020）年で共通して、「木島平村」、「飯山市」、「中野市」、「野沢温泉村」、「山ノ内町」の順に多くなっています。

構成比でみると、平成17（2005）年以降、「木島平村」の割合は低下傾向にあり、木島平村以外から通勤している「流入人口」の割合が上昇傾向にあります。

木島平村で従業する15歳以上の就業者数（常住地別）

	就業者数 (15歳以上)	常住地									
		木島平村	流入人口	飯山市	中野市	野沢温泉村	山ノ内町	長野市	小布施町	その他 県内	県外
H17 (2005)	2,390	1,817 (76.0%)	573 (24.0%)	296 (12.4%)	138 (5.8%)	50 (2.1%)	25 (1.0%)	19 (0.8%)	4 (0.2%)	31 (1.3%)	10 (0.4%)
H22 (2010)	1,922	1,410 (73.9%)	497 (26.1%)	261 (13.7%)	114 (6.0%)	41 (2.1%)	34 (1.8%)	18 (0.9%)	6 (0.3%)	18 (0.9%)	5 (0.3%)
H27 (2015)	1,959	1,427 (73.8%)	507 (26.2%)	262 (13.5%)	124 (6.4%)	48 (2.5%)	26 (1.3%)	21 (1.1%)	3 (0.2%)	20 (1.0%)	3 (0.2%)
R2 (2020)	1,828	1,168 (69.0%)	525 (31.0%)	252 (14.9%)	127 (7.5%)	48 (2.8%)	33 (1.9%)	32 (1.9%)	8 (0.5%)	22 (1.3%)	3 (0.2%)

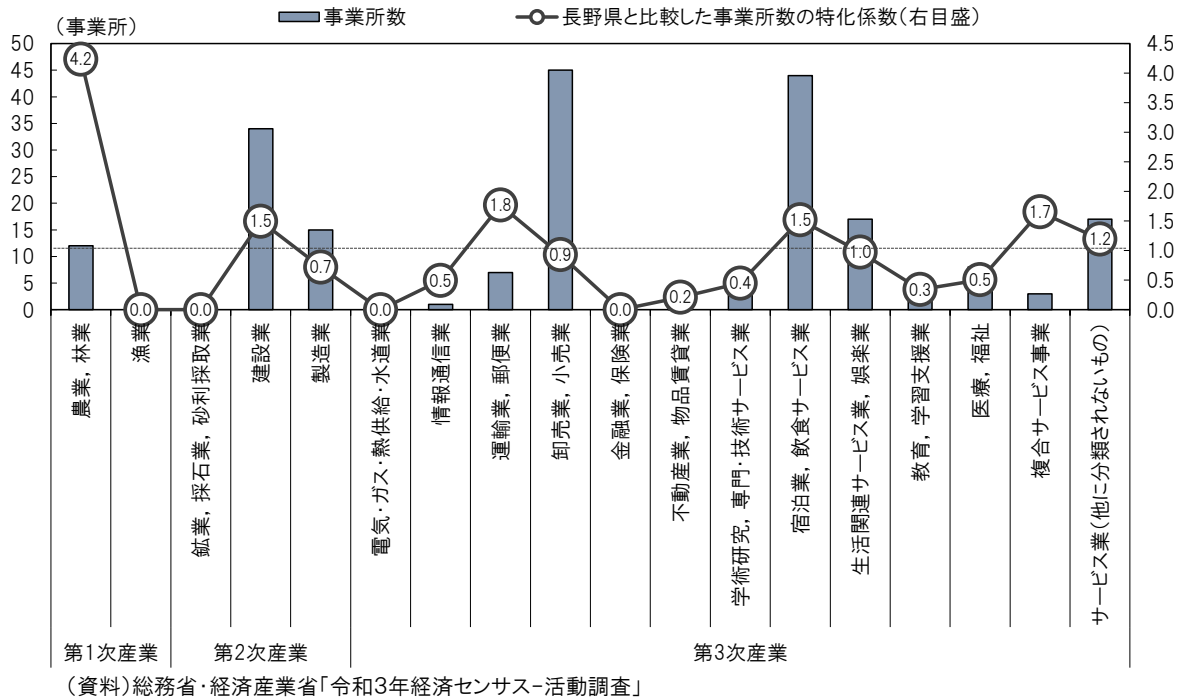
（資料）総務省「国勢調査」

（注）流入人口：木島平村以外から木島平村へ通勤している者（県内他市町村に常住する者および他県に常住する者）
木島平村で従業する就業者数には、従業地「不詳」または従業市区町村「不詳・外国」（従業地が「他の区・市町村」で通勤の場所（市区町村）が不詳及び外国の者）で木島平村に常住している者が含まれるため、木島平村に常住している者と流入人口の合計に一致しない場合がある。

木島平村以外の県内市町村は、令和2年時点における上位6市町村を掲載。

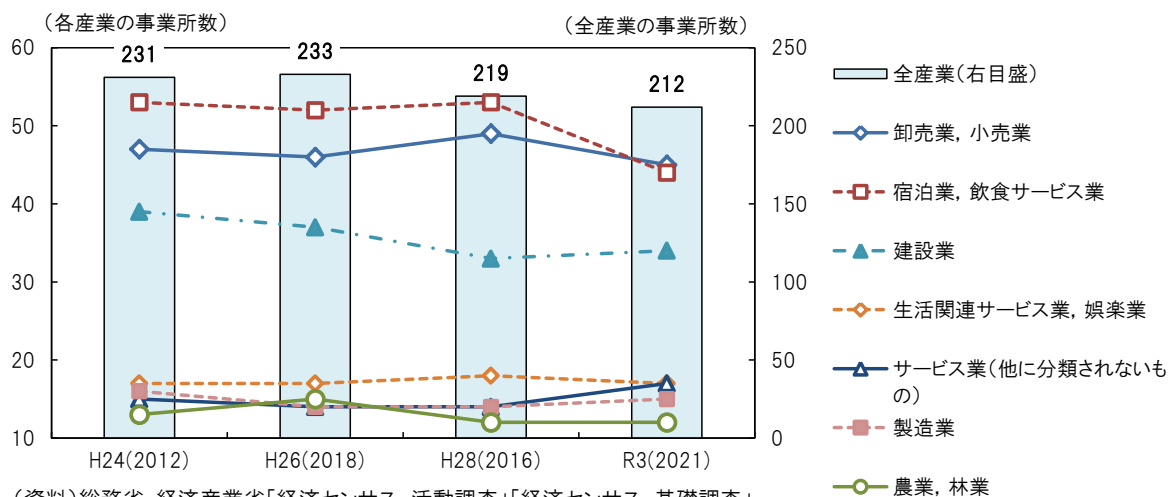
事業所数を産業大分類別にみると、「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「建設業」の事業所が多く、中でも「宿泊業、飲食サービス業」「建設業」は県と比較した特化係数が1を超えており、県全体と比べても事業所数の割合が高い産業であるといえます。また、「農業、林業」の特化係数は4.2と高く、木島平村を特徴づける産業となっています。

事業所数および長野県と比較した特化係数



事業所数は、全体として緩やかに減少傾向にあります。令和3（2021）年における事業所数の上位3産業についてみると、いずれも減少傾向にあり、特に「宿泊業、飲食サービス業」「建設業」の減少が顕著です。

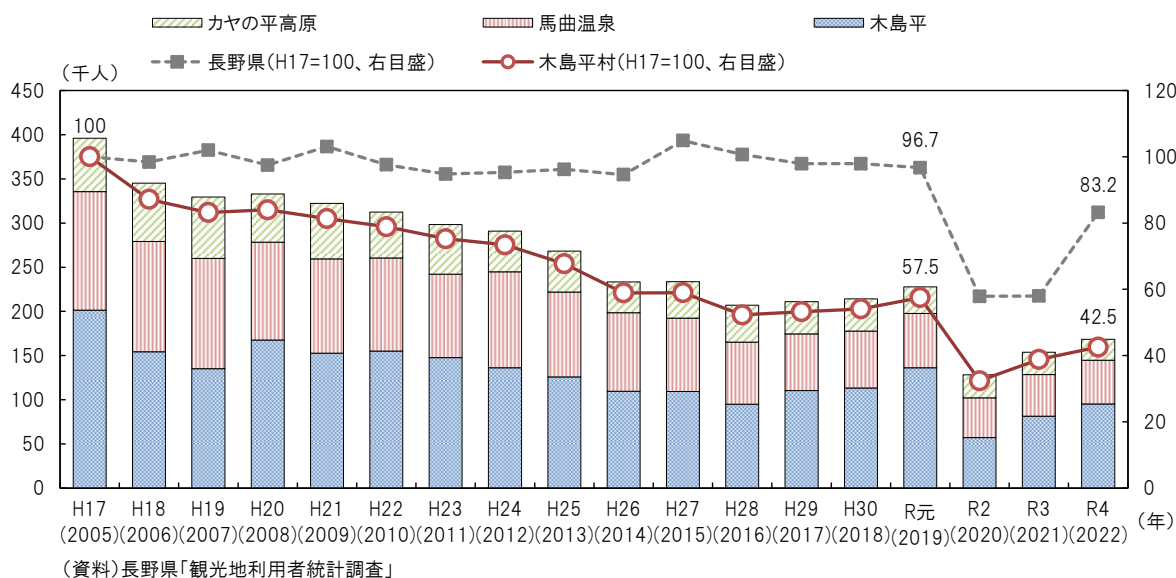
事業所数の推移



観光

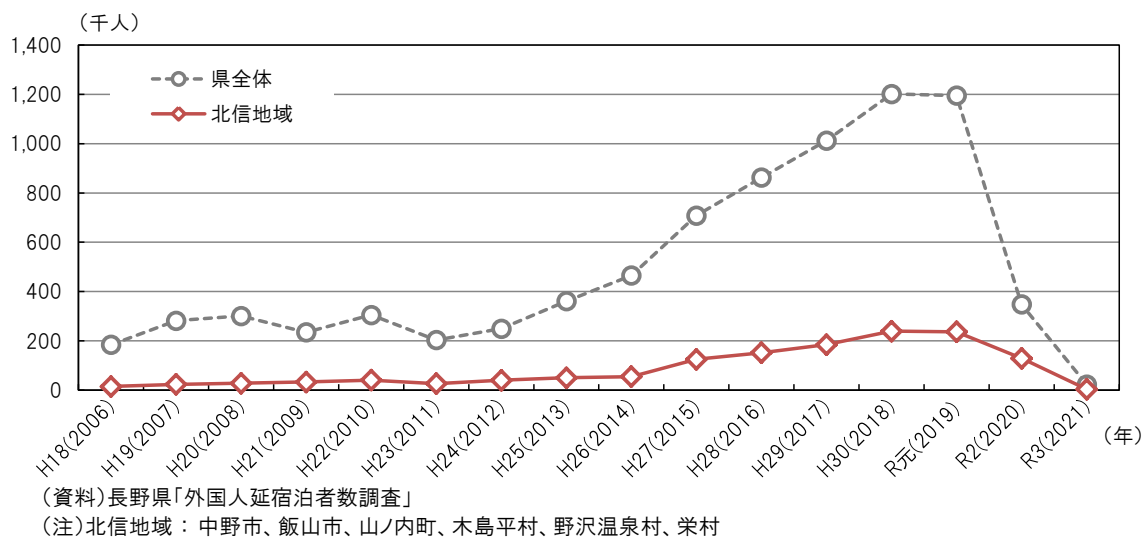
観光客数は、令和元（2019）年にかけて20万人を超える水準で推移していましたが、令和2（2020）年はコロナ禍により大きく落ち込んだのち、現在は緩やかな回復途上にあるものとみられます。また、長期的にみると、県全体と比べ落ち込み幅が大きくなっています。

観光客数の推移



長野県を訪れる外国人観光客は増加傾向にあります。コロナ禍により令和2（2020）年は大きく減少しましたが、本村を含む北信地域においても令和元（2019）年にかけて、増加傾向にありました。

外国人延宿泊者数の推移



3. 村民ニーズ

総合振興計画の策定にあたり、村の住みよさや課題、村の取組に対する意見等を把握するため、アンケート調査および各種団体等へのヒアリング調査を実施しました。

■ アンケート調査の概要

	村民アンケート	転出者アンケート	区長アンケート
調査対象	15歳以上の村民から年代別、集落別の人口比率に応じて無作為に抽出した1,500人	令和4年3月以降に転出された方のうち、転出手続き時に「アンケート調査に協力できる」と回答された方18人	村内各集落の区長26名
回収結果	有効回答数：697 (回収率：46.5%)	有効回答数：10 (回収率：55.6%)	有効回答数：26 (回収率：100.0%)

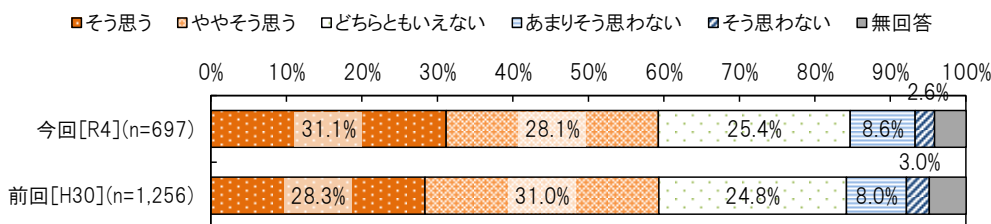
■ 団体ヒアリング調査の概要

No	分野	実施日	団体名等
1	福祉	令和5年5月17日	民生児童委員協議会
2	教育	令和5年5月24日	教育委員会
3	農業	令和5年5月24日	農業委員、農地利用最適化推進委員
4	少子化・移住	令和5年6月10日	長野県知事との対話集会
5	地域・集落	令和5年6月30日	区長会
6	防犯	令和5年7月6日	飯岳交通安全協会木島平支部
7	防災	令和5年8月4日	木島平村消防団
8	子育て	令和5年8月5日	子育て世代懇話会
9	移住	令和5年8月7日	移住定住促進協議会及び移住者
10	商工・観光	令和5年8月22日	木島平村商工会部会員

(1) 村の住みよさと課題

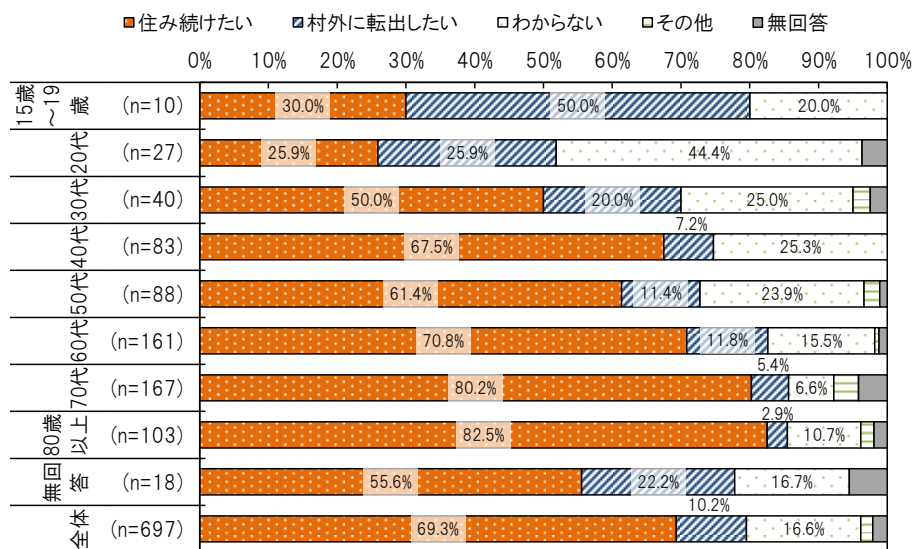
村が「住みよい」と考えている村民の割合は約6割であり、「住みよいと思わない」と答えた村民の割合（11.2%）を大きく上回る結果となりました。

村の住みよさ



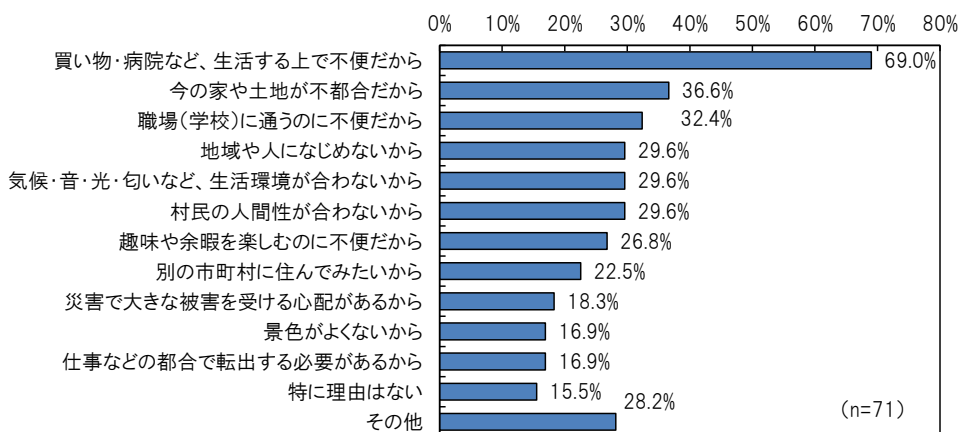
村に住み続けたい意向を年代別にみると、年代が高い方が住み続けたいという意向が強く、60代は約7割、70代以上では約8割に達しています。一方、20代は25.9%にとどまりました。今後も住み続けたい、あるいは村外へ転出した後もまた戻ってきたいと思える、若い世代が暮らしやすいと感じられる村づくりを進めていくことが求められています。

村に住み続けたい意向



村外に転出したいと回答した理由について尋ねてみると、約7割が「買い物・病院など、生活する上で不便だから」を回答しました。

村外に転出したい理由



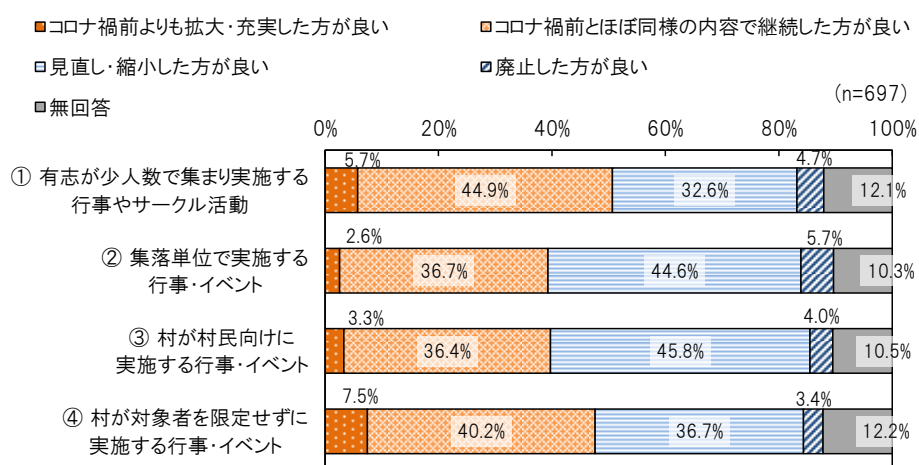
団体ヒアリングにおいても、デマンド交通など公共交通の更なる利便性向上や、車を持たない高齢者も安心して買い物できる仕組みの構築を期待する意見が出されました。高齢になっても移動や買い物の心配なく、安心して暮らせる生活環境の整備に向け、検討を深めていく必要があります。

(2) 持続可能な地域コミュニティのあり方

コロナ禍により行事等のあり方が見直される中、「村が村民向け実施する行事・イベント」について45.8%が「見直し・縮小した方がよい」と回答し、「コロナ禍前より充実・拡大」「同様の内容で継続」を合わせた回答割合(39.7%)を上回りました。

村民同士の関係性の維持・構築や、伝統文化などを次世代へ継承できるように配慮しながら、行事やイベント、活動の意義・必要性を再検討したり、負担を減らし効率的に実施できるような方法へ見直していく必要があります。

地域の行事・イベントのあり方について

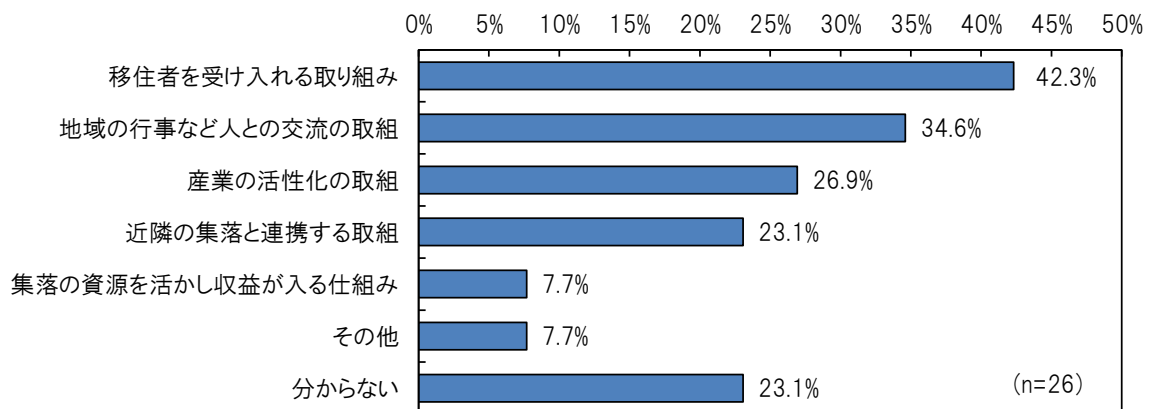


団体ヒアリングでは、地区の各種会議の効率的な運営方法として、スマートフォンアプリを活用した連絡体制や、テレビ会議システム等を用いた開催方法に関する意見も出されました。人口減少が進み地域活動の担い手不足が課題となる中、若い世代をはじめ村民誰もが参加しやすい地域コミュニティの実現に向けてあり方を見直していく必要があります。

(3) 集落について

集落を活性化するために重要な取組について区長アンケートで尋ねたところ、「移住者を受け入れる取り組み」と答えた区が42.3%と最も多く、続いて「地域の行事など人との交流の取組」が34.6%となりました。地域の担い手不足が課題となる中、移住者の受入れ促進による新たな活力の創出や、地域の行事や活動をどのように維持・継承していくか、あり方の見直しを含めた検討を進めていく必要があります。

集落を活性化するために重要な取組（区長アンケート）



移住者の方々を対象とした団体ヒアリングでは、木島平村を選んだきっかけとして、自然の中での子育てやウィンタースポーツを始めとするアクティビティ、都市部から近隣の他自治体へ一旦転入したのち気に入った物件に巡り合えたからなど、村のさまざまな魅力に関する意見が挙げられました。また、北陸新幹線飯山駅に近く、首都圏との時間的距離に利点があるとの声も出されました。コロナ禍でテレワークの普及が進み、地方にしながら都市部と同様の仕事が可能となる中、地方移住への関心が高まっています。この機を捉え、本村の強みを生かし多様なライフスタイルを実現できる村にすることで、新たな人の流れへつなげることが期待されます。一方、課題として、就労の場や医療体制の充実、物件取得に伴う修繕等に関する意見も出されました。これらは移住者だけでなく、村民全体の住みやすさにつながる課題でもあります。誰もが安心して住みつづけたいと思える村に向け、安心して暮らせる生活環境の整備に加え、地域の特色を活かした産業創出や就労支援にも取り組んでいく必要があります。

(4) 村の取組に対する重要度・満足度

村民アンケート調査では、101の取組について重要度と満足度を5段階で調査しました。

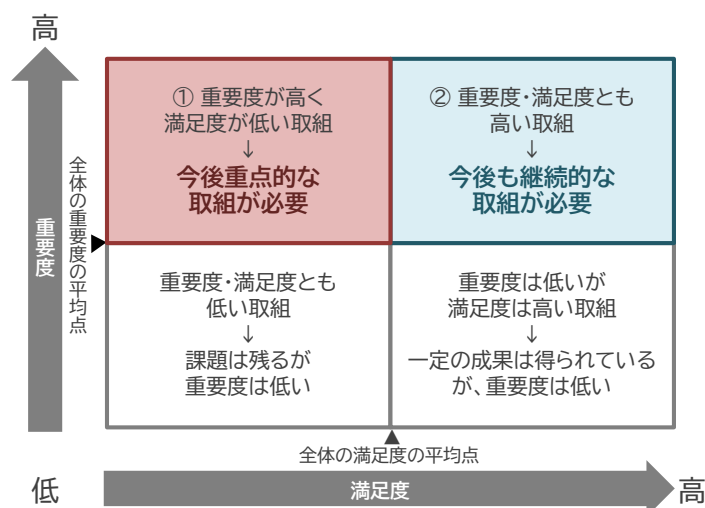
回答結果に基づき101の取組ごとに点数化し、それぞれ重要度と満足度の平均点と比較した高低により、取組を分類しました。

このうち「重要度が高く、満足度は低い」取組として16項目が挙げられました。これらは今後重点的に進めていく必要があります。

また、「重要度・満足度とも高い」取組として36項目が挙げられました。これらは今後も継続的に取り組み、随時改善を図っていく必要があります。

101の取組に対する重要度・満足度の分析結果

① 重要度が高く、満足度が低い取組【16項目】 ⇒今後重点的な取組が必要	② 重要度・満足度とも高い取組【36項目】 ⇒今後も継続的な取組が必要
<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急・休日夜間医療体制の確保 2. 不法投棄防止活動 3. 有害鳥獣対策 4. 空き家等の管理の指導 5. 克雪住宅の普及推進 6. 耕作放棄地の解消 7. 空き家等の利活用 8. 若手農業者との連携 9. 農業用施設の改修 10. 防犯体制の整備 11. インターネット環境の整備 12. 外部への積極的な販売支援 13. 振興作物の普及 14. 環境の保全と景観形成 15. 移住定住の推進 16. 林業従事者との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通確保の推進 2. 医療との連携 3. 地域医療の確保 4. 下高井農林高校の存続 5. 道路整備と交通確保の推進 6. 子育て支援の充実 7. 母子の健全育成 8. 地域で安心して暮らせる環境づくり 9. デマンド交通制度の改善 10. 防火水槽や消火栓等の計画的整備・更新 11. 発達支援体制の充実 12. 安心できる子育て環境づくり 13. 資源化の促進 14. 災害情報の伝達経路整備 15. ごみの削減の推進 16. 子育て世代包括支援センターの創設 17. 健康づくりの意識啓発 18. ごみ辞典の更新 19. きめ細やかな指導 20. 相談体制の充実 <p>(36施策のうち重要度の高い20施策を抜粋)</p>



4. 木島平村の現状と課題

(1) 現状の整理

木島平村を取り巻く環境の変化、統計からみた状況、アンケート調査結果および各種団体ヒアリング結果等に基づき、村の現状について「機会」「脅威」「強み」「弱み」の4つの視点から整理します。

外部環境	内部環境
機会 <ul style="list-style-type: none"> 地方への関心の高まり テレワークなど新たな働き方の普及 世界規模での脱炭素への流れおよびこれに伴うエネルギー・環境への関心の高まり デジタル社会の進展 生涯学習の重要性の一層の高まり 観光需要回復への期待感 地域活動・行事のあり方再検討の機運 	強み <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境 豊富な積雪 首都圏とのアクセスの良さ(新幹線 飯山駅、上信越自動車道) 特色ある教育方針(木島平型教育) 公共施設における再生可能エネルギーの自家発電・消費、小水力発電所の運営 木島平米をはじめとする農産物ブランド 堆肥センターの活用 デマンド交通・飯山駅シャトル便の整備 空き家バンクの運用 村内外の医療機関との関係性構築 子育て世代包括支援センター デジタル技術の積極的な活用
脅威 <ul style="list-style-type: none"> 人口減少 出生数の減少 高齢人口の増加 税収の減少や社会保障費の増加による行政サービスの低下 気候変動による豪雨災害等の被害の激甚化・頻発化 	弱み <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の増加に伴う介護保険料や医療費の増大が懸念 公共交通の更なる利便性の向上が課題 地域活動の担い手不足 条件不利農地を中心とした農地の荒廃化 事業所数の減少

○ SWOT 分析のフレームワーク

外部環境や内部環境を、強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリーで整理・分析し、今後の方向性の検討を行います。

内 部 環 境

		強み(S)	弱み(W)
外 部 環 境	機 会 (O)	【機会×強み】 機会を追い風に、 強みをどう生かすか	【機会×弱み】 機会を生かすため、 弱みをどのように克服するか
	脅 威 (T)	【脅威×強み】 脅威へ対応するために、 強みをどう生かすか	【脅威×弱み】 弱みを認識し、脅威による 影響をいかに抑えるか

(2) 木島平村の課題の整理

前述の結果を踏まえ、木島平村の今後の方向性を以下のとおり整理します。

① 子育て・教育・文化分野

外部環境	×	内部環境
脅威 [出生数の減少]		強み [子育て世代包括支援センター]

人口減少の進行により、地域コミュニティの衰退や地域経済の縮小、税収の減少や社会保障費の増加による行政サービスの低下などが懸念されます。本村では出生数を死亡者数が上回る「自然動態」のマイナス幅が拡大傾向にあり、出生数の減少ペースも県全体より早く、少子化対策は喫緊に取り組むべき課題です。理想とする子どもの数を叶え、安心して生み育てることができるよう、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない包括的な支援の充実を図る必要があります。また、子育てと仕事の両立のため、家庭や職場、地域社会の理解促進に加え、希望に応じ子どもを安心して預けられる環境の充実も図っていく必要があります。

外部環境	×	内部環境
脅威 [人口減少]		強み [豊かな自然環境] [木島平型教育]

保小連携、小中一貫による教育や、協同の学び合い等から主体的・対話的で深い学びを実践する木島平型教育を推進し、ふるさと木島平を心に刻む教育を通じて、子ども達のふるさとへの誇りや愛着を育てていくことが重要です。また、本村の強みである豊かな自然環境や農業等体験等を積極的に取り入れ、魅力ある学びの場を進めます。

外部環境	×	内部環境
機会 [デジタル社会の進展]		強み [デジタル技術の積極的な活用]

子ども達が、グローバル化やデジタル化が進展する社会においても活躍できる力を育むため、デジタル技術の活用やプログラミング学習、外国語教育の充実も図ります。こうした木島平村における教育の特色を村内外へ発信し、子育て世代が村へ定着することや、移住促進へとつなげていくことが必要です。

外部環境	×	内部環境
機会 [生涯学習の重要性の一層の高まり]		強み [豊富な積雪]

高齢化社会を迎えて、何歳になっても村民一人ひとりが豊かな人生を送るために、文化活動やスポーツ活動など生涯学習の重要性は一層高まっています。こうした活動は、世代を超えた住民同士の交流を図る機会としても重要な役割も担っています。グリーンシーズンはもちろん、豊富な積雪を生かしたウインタースポーツの普及・発展など、村の特色も踏まえた文化・スポーツ活動のあり方について検討を進めます。

② 医療・福祉分野

外部環境	内部環境
脅威 [高齢人口の増加]	強み [村内外の医療機関との関係性構築] 弱み [介護保険料や医療費の増大が懸念]

高齢人口が増加する中、地域住民が安心して暮らす上で、保健・医療・福祉サービスの重要性が高まっています。村民アンケート調査においても、重要度の高い取組として「救急・休日夜間医療体制の確保」、「救急医療体制や福祉サービスと医療機関との連携」等、地域医療に関する取組が複数挙げられており、今後も村内外の医療機関との連携強化を図るなど、より一層の取組の充実が求められています。

併せて、高齢者がいきいきと活躍できる場を創出することは、高齢者の生きがいがづくりだけでなく、健康寿命を延伸し、介護保険料や医療費を抑制する観点からも重要です。引き続き介護予防、フレイル予防の取組を進める必要があります。

③ 産業分野

外部環境	内部環境
機会 [デジタル社会の進展] [地方への関心の高まり]	弱み [条件不利農地を中心とした農地の荒廃化]

農業従事者の高齢化や減少等により、条件不利農地を中心として荒廃化が進み課題となっています。持続的可能な農業に向け、ロボットやAI、IoTなどデジタル技術を活用し、熟練者の技能・ノウハウの継承や省力化・作業負担の軽減を図るスマート農業へ取り組んでいく必要があります。加えて、優先度に応じて残すべき農地のエリア分けや、村外からの就農者や週末農業者など新たな担い手による活用等についても検討を進めていく必要があります。

また、効率的な農業経営に向けては、農地の利用集積も課題です。所有者の意向を踏まえながら、希望に応じて農地を所有する農家同士のマッチングを図ったり、集積を進め法人化を促していくことも検討すべき観点です。

外部環境	内部環境
脅威 [気候変動による豪雨災害等の激甚化・頻発化]	強み [木島平米をはじめとする農産物ブランド] [堆肥センターの活用]

農産物の高付加価値化および地球温暖化に伴い顕在化する気候変動への対応として、本村が有する「堆肥センター」などの強みを生かし、環境への負荷を低減した農業に取り組めます。また、気候変動に負けない農業生産に取り組み、高い品質・食味水準を確保するなど、木島平米をはじめとするブランド力の更なる強化を推進します。

外部環境	内部環境
機会 [観光需要回復への期待感]	強み [豊かな自然環境] [首都圏とのアクセスの良さ]

宿泊業、飲食サービス業は県と比べ事業所数割合も高いことから、観光業は本村の基幹をなす産業の一つです。観光客数はコロナ禍により大きく落ち込みましたが、徐々に回復への兆しが見え始めています。移住促進を図る上でも、まずは村の魅力を知ってもらうための取組は欠かせません。豊かな自然環境や歴史、文化などを活用した体験コンテンツの充実や、首都圏とのアクセスの良さを強みと捉えたプロモーションなどにより、訪れていただく機会をつくり、関係・交流人口の拡大に向けた取組を進めていく必要があります。

また、コロナ禍で落ち込んだものの、北信地域においてもインバウンドは増加傾向にあります。アフターコロナを見据え訪日外国人観光客数の回復が期待される中、本村においてもインバウンド需要を地域経済に取り込んでいくことが求められます。

外部環境	内部環境
機会 [地方への関心の高まり] [テレワークなど新たな働き方の普及]	弱み [事業所数の減少]

売上の中核をなす商工業への支援も重要です。商店をはじめ事業所は、地域経済の担い手として村民に商品・サービスを提供することを通じ、村の暮らしやすさを支えています。新たな創業者がみられる一方、高齢化に伴う廃業等により、事業所数の減少が懸念されます。新たな事業の創出や、コロナ禍や原材料の高騰など社会情勢の変化を背景とした業態転換等への支援を行うほか、既存の事業所に対しては事業承継に向けた取組も検討して行く必要があります。併せて、移住創業者を誘引し、新たなビジネスの創出の促進にも取り組んでいくことが求められます。

④ インフラ・交通・暮らし分野

外部環境	内部環境
脅威 [高齢人口の増加]	強み [デマンド交通・飯山駅シャトル便] 弱み [公共交通の更なる利便性の向上]

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、公共交通など生活インフラの整備が欠かせません。村ではデマンド交通のほか飯山駅からの二次交通としてシャトル便の運行を行っていますが、車を持たない高齢者に加え、子育て家庭における通学や市街地への通勤などの役割も果たしています。利用者からは、運行時間や運行ルートなど利便性の向上を求める声が寄せられており、今後も継続して交通制度の見直しを図っていく必要があります。

外部環境	×	内部環境
脅威 [気候変動による豪雨災害等の 激甚化・頻発化]		強み [デジタル技術の積極的な活用]

近年、豪雨災害による被害が激甚化・頻発化しています。災害時に誰一人取り残されることがないように、正確な災害情報をより迅速・確実に伝達するため、既存の多様な伝達手段に加え、デジタル技術を活用した新たな伝達方法についても検討を進め、情報発信手段の更なる多層化を図る必要があります。

外部環境	×	内部環境
機会 [世界規模での脱炭素への流れ およびこれに伴うエネルギー・ 環境への関心の高まり]		強み [公共施設における再生可能エネ ルギーの自家発電・消費、 小水力発電の運営]

気候変動による豪雨災害は、地球温暖化との関連性が指摘されており、脱炭素への流れが世界的に加速する中、本村においても持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。村民や事業者の意識醸成を図り、ゴミ排出量の削減や新築住宅・建築物における省エネ基準適合等の推進を図るほか、村としても公共施設における再生可能エネルギーの自家発電・自家消費や、小水力発電所の運営等に引き続き取り組みます。

外部環境	×	内部環境
機会 [地方への関心の高まり] [テレワークなど新たな働き方の普及]		強み [首都圏とのアクセスの良さ] [空き家バンクの活用]

人口減少・少子高齢化により、地域の担い手不足が深刻化してきており、将来にわたって持続可能な地域づくりのためには、首都圏など都市部からの人の流れを促進し、人口減少の抑制を図ることが課題です。そのためには、前述のとおり子どもから子育て世代、高齢者まで誰もが暮らしやすく、希望が叶う村づくりを進め、村民が地域に誇りを持つとともに、村の魅力を外へ様々な方法で発信し、木島平村をまずは「知って」「来て」もらうことが必要です。併せて、移住検討者の居住物件に対するニーズに応え、選ばれるために空き家の活用や賃貸住宅の建設促進、新たな分譲地の開発等にも取り組む必要があります。

⑤ 自治・協働・共生・交流分野

外部環境	内部環境
機会 [地域活動・行事のあり方再検討の機運]	弱み [地域活動の担い手不足]

安心して暮らせる住みよい地域づくりためには、村民自身が地域コミュニティを基盤とした各種活動や運営組織に関わる必要があります。一方で、人口減少に伴い地域における担い手不足が顕在化しており、各種活動の維持・存続が課題となっています。村民アンケート結果をみると、持続可能な地域コミュニティの実現に向け、これまでの行事やイベントについてあり方を見直す機運の高まりが伺えます。地域の自治・運営に際して過度な負担が偏在しないよう、効率的な運営方法も検討しながら、地域に必要な活動が今後も継続して実施できるよう、地区ごとの活動内容や運営体制を見直していく必要があります。

外部環境	内部環境
脅威 [税収の減少や社会保障費の増加による行政サービスの低下]	強み [デジタル技術の積極的な活用]

人口減少・少子高齢化の進行に伴い、税収の減少や地域経済が縮小する一方、社会保障費の増加など様々な影響が懸念されており、これまでと同様の手法では従前の行政サービスを維持・向上させることは困難になると想定されます。このような状況の中、将来にわたり持続可能な自治体運営を行うためには、民間事業者や地域の活動組織との連携・協力や、デジタル技術の導入による効率化や経費削減等に取り組んでいく必要があります。

第2章 基本構想

木島平村第7次総合振興計画 基本構想（令和7年度～令和14年度）を以下に示します。

【1】将来像

木島平村が目指す8年後の将来像を次のように掲げます。

誇りと愛着を育み、 一人ひとりが希望を持てる木島平 ～誰もが暮らしやすい持続可能な村～

誇りと愛着を育み

村の魅力を改めて再認識し、村民が地域に誇りと愛着を持つことで「住み続けたい」と思える村を目指します。

一人ひとりが希望を持てる

子どもから若い世代、高齢者まで誰もが希望を持って、それぞれの多様な幸せを実現できる村を目指します。



誰もが暮らしやすい持続可能な村

子どもから高齢者まで
誰もが安心して暮らし続けることができる 木島平村 を
実現していきます。

【2】基本目標

「将来像」の実現に向け、推進する政策の5つの基本目標を次のとおり掲げます。

<p>【基本目標①】 安心して子育てでき、誰もが学び続けられる</p>	<p>子育て・教育・文化</p>
<p>[子育て / 学校教育 / 生涯学習 / スポーツ / 文化]</p>	
<p>【基本目標②】 いきいきと健やかに暮らせる</p>	<p>医療・福祉</p>
<p>[生活福祉 / 高齢者福祉 / 障がい者福祉 / 地域医療 / 健康]</p>	
<p>【基本目標③】 多様な産業が活力を生み出す</p>	<p>産業</p>
<p>[農林業 / 商工業 / 観光業 / ブランド化]</p>	
<p>【基本目標④】 自然と調和し安心して暮らせる</p>	<p>インフラ・交通・暮らし</p>
<p>[消防防災 / 情報通信 / 生活環境 / ゼロカーボン / 道路交通 / 移住定住]</p>	
<p>【基本目標⑤】 持続可能な村をともに創る</p>	<p>自治・協働・共生・交流</p>
<p>[住民自治 / 人権 / 協働・共生社会 / 行財政 / 交流]</p>	

第3章 基本計画

木島平村第7次総合振興計画 前期基本計画（令和7年度～令和10年度）を以下に示します。

【1】施策体系

各基本目標における施策の体系を以下に整理します。

基本目標	政策分野	施策
基本目標① 安心して子育てでき 誰もが学び続けられる	子育て 教育 文化	1-1 総合的な子育て環境の充実
		1-2 木島平型教育の推進
		1-3 保育・幼児教育の推進
		1-4 文化活動の推進と文化財の活用
		1-5 生涯学習の推進
基本目標② いきいきと 健やかに暮らせる	医療 福祉	2-1 みんなで支え合う地域づくり
		2-2 地域医療体制の充実
		2-3 健康長寿の村づくりの推進
基本目標③ 多様な産業が 活力を生み出す	産業	3-1 滞在型観光の推進
		3-2 商工業の振興と新しい産業の創出
		3-3 地域資源を活用した特産物のブランド化
		3-4 農業の振興
		3-5 森林の活用
基本目標④ 自然と調和し 安心して暮らせる	インフラ 交通 暮らし	4-1 安全で円滑な交通インフラ整備の推進
		4-2 誰もが安心して暮らせる村づくり
		4-3 情報発信の強化
		4-4 移住定住の促進
		4-5 空き家対策の推進
		4-6 地球温暖化防止対策の推進
		4-7 環境保全とごみ減量化・リサイクルの推進
基本目標⑤ 持続可能な村を ともに創る	自治 協働 共生 交流	5-1 持続可能な集落活動の推進
		5-2 人権が尊重される村づくりの推進
		5-3 村民とともに進める村づくり
		5-4 時代に適合した行財政運営の推進
		5-5 姉妹都市「調布市」との交流促進
		5-6 関係人口の創出
		5-7 下高井農林高校との連携

【2】重点プロジェクト

将来像の実現に向けて、特に力を入れて分野横断的に取り組む3つのテーマを「重点プロジェクト」として設定し、重点的に推進していきます。

特に力を入れて分野横断的に取り組む
3つのテーマを「重点プロジェクト」として
設定し、重点的に推進

基本目標	施策	重点プロジェクト		
		少子化対策プロジェクト	住み続けたい暮らし実現プロジェクト	魅力発信プロジェクト
基本目標① 安心して子育てでき 誰もが学び続けられる	1-1 総合的な子育て環境の充実	●		
	1-2 木島平型教育の推進	●		
	1-3 保育・幼児教育の推進	●		
	1-4 文化活動の推進と文化財の活用			
	1-5 生涯学習の推進			
基本目標② いきいきと 健やかに暮らせる	2-1 みんなで支え合う地域づくり		●	
	2-2 地域医療体制の充実		●	
	2-3 健康長寿の村づくりの推進			
基本目標③ 多様な産業が 活力を生み出す	3-1 滞在型観光の推進			
	3-2 商工業の振興と新しい産業の創出		●	
	3-3 地域資源を活用した特産物のブランド化			●
	3-4 農業の振興		●	
	3-5 森林の活用			
基本目標④ 自然と調和し 安心して暮らせる	4-1 安全で円滑な交通インフラ整備の推進		●	
	4-2 誰もが安心して暮らせる村づくり		●	
	4-3 情報発信の強化			●
	4-4 移住定住の促進	●	●	●
	4-5 空き家対策の推進			
	4-6 地球温暖化防止対策の推進		●	
	4-7 環境保全とごみ減量化・リサイクルの推進		●	
基本目標⑤ 持続可能な村を とともに創る	5-1 持続可能な集落活動の推進	●	●	
	5-2 人権が尊重される村づくりの推進			
	5-3 村民とともに進める村づくり			
	5-4 時代に適合した行財政運営の推進			
	5-5 姉妹都市「調布市」との交流促進			●
	5-6 関係人口の創出			●
	5-7 下高井農林高校との連携			

※特に関連の深い施策に●を表示

【重点プロジェクト①】少子化対策プロジェクト

～若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～

本村の人口減少傾向の主な要因として、死亡数が出生数を上回る「自然減」のマイナス幅が拡大傾向にあることが挙げられます。県と比較しても、本村の出生数の減少ペースは早くなっており、出生数の減少傾向を抑制し、少子化に歯止めをかけることが喫緊の課題です。

一人ひとりの多様な生き方が尊重される社会を目指すことを前提として踏まえつつ、若い世代が結婚や出産、子育ての不安を払しょくでき、理想とする子どもの数をかなえ、安心して子育てできるむらの実現に向けた施策を重点的に推進します。

【重点プロジェクト②】住み続けたい暮らし実現プロジェクト

～未来へつながる安全安心で持続可能な暮らしを実現する～

全ての村民が「将来にわたり木島平村に住み続けたい」「村外へ出てからもまた戻ってきたい」と思えるためには、安全・安心で豊かな暮らしを維持・充実させていくことが不可欠です。

村民アンケートでは、年代が高い方ほど住み続けたい意向が強く、転出したいと考える割合は若い世代ほど高い傾向にあることが伺えます。

若い世代をはじめ、誰もが安心して住み続けたいと思える村の実現に向け、暮らしやすい生活環境の整備や就労の場の充実、脱炭素など将来に向け持続可能な暮らしを実現するための施策に取り組みます。

医療、福祉、産業、暮らしなどさまざまな分野においてデジタル技術も活用しながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組みます。

【重点プロジェクト③】魅力発信プロジェクト

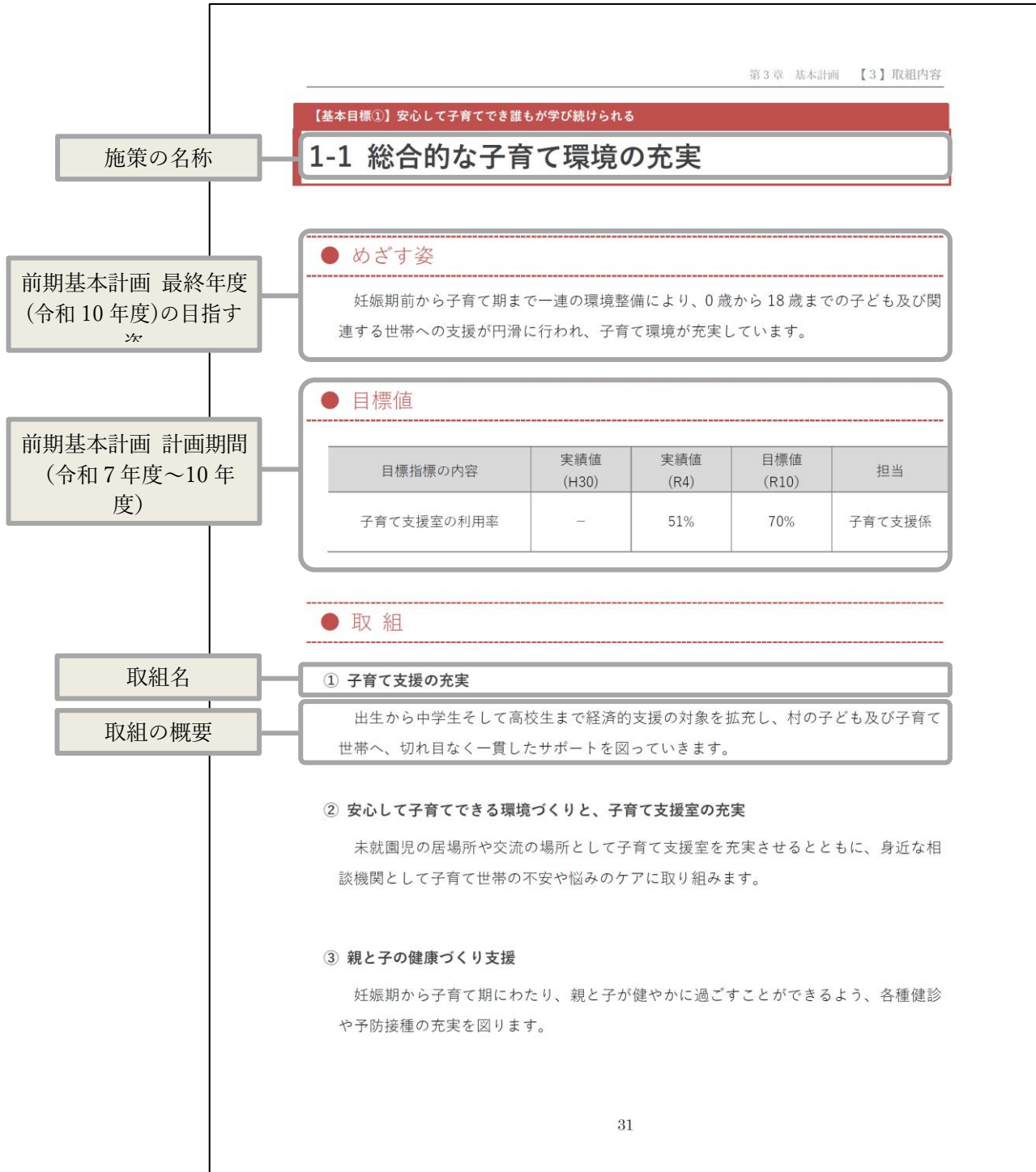
～地域への誇りと愛着を育むとともに、新たな人の流れを村の活力につなげる～

村民の方々の定住や還流の促進、また村外からの人の流れを生み出していくためには、村の魅力を認識してもらうことが必要です。村民においては地域への誇りと愛着を醸成し、また域外の方へは木島平村でのライフスタイルの魅力に気づいてもらい移住の促進へつなげます。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、東京一極集中のリスクが顕在化するとともに、デジタル技術を活用したテレワークの急速な普及により、場所に制限されない柔軟で多様な働き方が現実のものとなり、都市部の若者を中心に地方移住への関心が高まっています。こうした機運を好機と捉え、首都圏とのアクセスの良さなど本村の強みを生かし、柔軟な働き方を実践しやすい取組を進めることで、希望に応じた多様なライフスタイルを実現しやすい村づくりを進めます。

【3】取組内容

各施策の見方は以下のとおりです。



**【基本目標①】 安心して子育てでき誰もが学
び続けられる**

【基本目標①】安心して子育てでき誰もが学び続けられる

1-1 総合的な子育て環境の充実

● めざす姿

妊娠期前から子育て期まで一連の環境整備により、0歳から18歳までの子ども及び関連する世帯への支援が円滑に行われ、子育て環境が充実しています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
子育て支援室の利用率	—	51%	70%	子育て支援係

● 取組

① 子育て支援の充実

出生から中学生そして高校生まで経済的支援の対象を拡充し、村の子ども及び子育て世帯へ、切れ目なく一貫したサポートを図っていきます。

② 安心して子育てできる環境づくりと、子育て支援室の充実

未就園児の居場所や交流の場所として子育て支援室を充実させるとともに、身近な相談機関として子育て世帯の不安や悩みのケアに取り組めます。

③ 親と子の健康づくり支援

妊娠期から子育て期にわたり、親と子が健やかに過ごすことができるよう、各種健診や予防接種の充実を図ります。

また、妊産婦と子ども（18歳まで）の医療費のほか、産後ケアサービスや1か月児健診、インフルエンザ等予防接種、不妊治療費用への助成など、妊娠から子育て期における経済的負担の軽減に取り組みます。

④ 子ども家庭センターの設置と推進による子育て世代への包括的な支援体制の充実

子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点事業を統合した、こども家庭センターの設置と推進に努めます。

母子手帳交付時の専門職による面接、乳児訪問・相談、栄養・食事相談など、子育て支援係と連携しながら、妊娠前から子育て期まで切れ目ない支援と相談体制の充実を図ります。

⑤ 地域全体で支える子育て環境の充実

子育て世帯が安心して産み育てられる環境を目指し、子育てに関する講座や情報発信などを積極的に行い、子育てへの理解・関心を促進し、地域全体で子どもを見守り支える村づくりを推進します。

【基本目標①】安心して子育てでき誰もが学び続けられる

1-2 木島平型教育の推進

● めざす姿

木島平型教育の推進により、豊かな人間性と自立性を備え、郷土愛と誇りをもてる子どもが育っています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
学校自己評価に基づいた以下の目標値				
「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいますか」児童生徒の割合	—	72% (小6) 81% (中3)	80% (小6) 90% (中3)	子育て支援係
「自分にはよいところがある」児童生徒の割合	—	73% (小6) 82% (中3)	80% (小6) 90% (中3)	子育て支援係
「自分とは違う意見について考えるのは楽しい」児童生徒の割合	—	82% (小6) 82% (中3)	90% (小6) 90% (中3)	子育て支援係
「PC・タブレットなどのICT機器を活用する児童生徒の割合	—	39% (小6) 43% (中3)	70% (小6) 70% (中3)	子育て支援係

● 取組

① 一人一人の人権が尊重され、多様性を包み込む学びの充実

子どもの権利保障や同和教育等、人権尊重の視点に立った教育環境づくりを進めます。
また、すべての児童生徒が自分らしく学ぶことのできる教育活動や、児童生徒の個々の教育的ニーズに応じたICTやデジタル教材の有効な活用を図ります。

② 他者との共同による「主体的・対話的で深い学び」の充実

他者と探究・協同する学びを創出する木島平型教育を充実させます。また、デジタル機器の活用による個別最適な学びを推進すると共に、子どもの学びをつなげる（保・小・中学校）教職員の資質向上及び研修の充実を図ります。

③ 多世代・多様な立場の村民が学び合う、地域コミュニティの充実

学校・家庭・地域の役割とつながりを創り出すコミュニティ・スクールを推進します。また、大人と子どもの多様な学習機会を提供する生涯学習を推進します。

④ 国内外の同世代とつながる体験学習・交流の充実

生活環境が異なる八丈島の子どもたちとの同世代間交流を推進します。また、ルクセンブルクとの国際交流を通じて多文化に学び、語学力向上への意識を高める体験学習を推進します。

【基本目標①】安心して子育てでき誰もが学び続けられる

1-3 保育・幼児教育の推進

● めざす姿

自然、文化、人を活かした地域密着型の特色ある保育が進められています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
保育園入所率 (年少から年長までの入所率)	—	93%	95%	子育て支援係

● 取組

① 保育・幼児教育の推進

保育士の研修を実施します。また、外部の幼稚園・保育園の視察を行い、新しい取り組み等を取り入れ保育の質の向上を図ります。

② 地域教材を取り入れた保育活動の推進

年間を通して、季節ごとの自然や遊びに浸りこむ保育活動に取り組みます。また、地元住民や下高井農林高校生との交流など、地域の特色を活かした「やまほいく」を推進します。

やまほいくの研修はすべての職員が参加します。

【基本目標①】安心して子育てでき誰もが学び続けられる

1-4 文化活動の推進と文化財の活用

● めざす姿

保存されている文化財を後世に残し、村民が歴史を学ぶことで村に対する誇りと愛着が育まれています。また、幅広く村民が芸術・文化に関心を持ち、心豊かに暮らせています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
芸術文化協会会員数	221人	120人	120人	生涯学習係
ふるさと資料館来場者数	400人/年	74人/年	100人/年	生涯学習係

● 取組

① 芸術・文化活動の推進

村民がふるさとの歴史や文化芸術に参加できるような環境づくりを進めるとともに、芸術・文化団体の活動を支援します。

② 文化財の保護と活用の推進

先人から受け継がれた文化財を後世に引き継ぐため、適切に保護するとともに、村の地域資源として一層の活用を進めます。

【基本目標①】安心して子育てでき誰もが学び続けられる

1-5 生涯学習の推進

● めざす姿

自然と文化を愛し、気軽に学べ、自己を高める場を提供することで、村民一人ひとりが健康で生きがいを持って暮らしています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
図書館来館者数	5,702 人/年	4,769 人/年	5,000 人/年	生涯学習係
生涯学習講座開催数	27 講座/年	47 講座/年	35 講座/年	生涯学習係

● 取組

① 多様な学習機会の創出

村民が知識教養を高め、仲間を作り、健康で心豊かな生活を送れるよう各種講座を充実します。

② ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

部活動の地域クラブ活動への移行を推進し、子どもたちの多様な体験機会を確保します。また、生涯を通じたスポーツ活動の推進による健康づくりを支援します。

【基本目標②】いきいきと健やかに暮らせる

【基本目標②】いきいきと健やかに暮らせる

2-1 みんなで支え合う地域づくり

● めざす姿

誰もが生きがいを持ち、地域に住むみんなで支えあいながら、心身ともにいきいきと生活しています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
要介護認定率	16.00%	16.24%	17.0%以下	健康福祉係

● 取組

① 高齢者の生きがいづくり

高齢者一人ひとりが健康で自立し生きがいを持って暮らせるよう、老人クラブやシルバー人材センターなどの活動を支援し、高齢者の社会参加の場を支援していきます。

また、高齢者の外出を促すため、デマンド交通利用料の助成を行うほか、高齢者の移動手段について、関係部署とともに検討を行います。

健康で自立し生きがいを持って暮らせるよう、老人クラブなど高齢者の社会参加の場を支援していきます。

② 介護予防の推進

高齢者を対象とした介護予防に関する教室や講座を、常に内容等の検討を行いながら開催するとともに、身近な場所で自発的に継続して取り組むことができるよう、関係機関への支援などに取り組みます。

③ 共に支え合う村づくり

地域福祉の拠点として木島平村社会福祉協議会への助成を行い、高齢者の生活支援や、地域で支え合う仕組みづくりを支援します。

また、高齢者の交流の場として重要な役割を担っているサロンなどの地域活動に対して、担い手となっているボランティア団体や地域住民への様々な活動支援を行うほか、民生児童委員の活動を支援し、地域での支え合いを促進します。

④ 地域で安心して暮らせる環境づくり

高齢者の日常生活を支援するため、緊急通報装置の設置や住宅改修補助、介護用品購入費補助などを行い、在宅で安心して生活できる環境づくりを行います。

⑤ 障がい者（児）福祉の充実

障がいがあっても、意志に基づき自分らしく生き活きと安心して暮らせる地域をつくるため、地域での暮らしの支援サービスや提供体制を充実しながら、障がい者の暮らしを地域全体で支える環境づくりを推進します。

⑥ 地域包括ケアシステムの推進

高齢者一人ひとりの生活の多様性に寄り添いながら、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための地域包括ケアシステムの体制・取組を充実します。

【基本目標②】いきいきと健やかに暮らせる

2-2 地域医療体制の充実

● めざす姿

地域の医療機関が確保されることで誰もが必要な医療を受けられ、安心して生活しています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
村内医療機関及び 地域内総合病院の数	5 機関	5 機関	5 機関	健康福祉係

● 取組

① 地域中核医療機関への支援

地域の中核医療機関である北信総合病院と飯山赤十字病院に対して、近隣市町村と連携した支援を継続し、地域中核医療機関の確保と充実を図ります。

② 地域医療機関との連携強化

かかりつけ医となる村内外の貴重な地域医療を支えていくため、医療・保健・福祉・介護のネットワーク構築及び連携を強化するとともに、在宅で安心して暮らせるよう、継続して情報共有などを行います。

③ 休日夜間医療体制の確保

病院群輪番制病院の運営費に対して補助を行い、休日及び夜間における医療体制の確保を図ります。

【基本目標②】いきいきと健やかに暮らせる

2-3 健康長寿の村づくりの推進

● めざす姿

自分の健康に関心を持ち、健康的な食事や運動の習慣を持つことを通して、誰もが健康に生活しています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
健康寿命（平均自立期間）	男：80.4年 女：82.1年	男：80.0年 女：84.0年	男：81.0年 女：85.0年	健康福祉係

● 取組

① 健康づくりの推進

自身の健康課題を明確にし、必要な支援を行えるよう、各種健（検）診の充実を図るとともに、「自分の健康は自分で守る」意識を醸成し、保健補導員会など関係者とともに積極的な受診勧奨を行います。

そのうえで、保健師・管理栄養士等が健康に関する様々な相談に応じるほか、一人ひとりに適した健康づくりのための指導を行うなど、村民の健康づくりを推進します。

② 健康づくりの支援

健康の意識づけや運動習慣の定着に向けて、生涯学習係と連携して各種健康教室を開催するほか、健康づくりのきっかけとなるよう、常に内容等の検討を行いながら健康ポイント事業を継続します。

③ 疾病予防の推進

若い頃からの生活習慣病予防・重症化予防のために、積極的な健診受診と運動習慣の重要性を周知するとともに、個人の生活状況などを把握しながら、栄養や食生活の改善に向けた栄養相談や食事指導、啓発活動を行います。

また、こころの健康に関する正しい知識の普及・啓発や相談支援に取り組みます。

④ 高齢者の疾病重症化予防の推進

医療・介護のデータから地域の健康課題を把握し、保健事業や介護予防を一体的に実施します。

また、必要な医療・介護サービスにつなげるために、高齢者一人ひとりの健康状態の把握を行い、受診勧奨や、介護予防事業への参加勧奨を実施します。域の中核医療機関である北信総合病院と飯山赤十字病院に対して、近隣市町村と連携した支援を継続し、地域中核医療機関の確保と充実を図ります。

【基本目標③】 多様な産業が活力を生み出す

【基本目標③】多様な産業が活力を生み出す

3-1 滞在型観光の推進

● めざす姿

本村ならではの豊かな自然や食、歴史・文化など磨かれた地域資源やおもてなしにより、多くの人が年間を通じて訪れ、村ににぎわいと活気が溢れています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
観光入込数	214,000 人 /年	169,000 人 /年	240,000 人 /年	商工観光係
観光サイト訪問数	46,390 人/年	100,049 人/ 年	150,000 人/ 年	商工観光係

● 取組

① 観光資源の活用と保全

本村ならではの自然や文化、歴史をはじめとした地域資源を、魅力的な観光資源として利活用するために磨き上げを行い、関係機関と連携した保全活動に取組み持続可能な観光地域づくりに取組みます。

② 体験交流観光の充実

体験観光プログラムの充実や受入れ体制を整備し、ガイド・インストラクターの発掘及び育成を図るとともに、地域の特性を活かした農村体験・滞在型のツーリズムの充実を図ります。

③ おもてなし観光の推進

観光振興局を中心に、宿泊、飲食等事業者等との連携による接待研修の促進に努め、地域ぐるみでおもてなし観光を推進し、リピーターに愛される観光地づくりに努めます。

④ 効果的な PR 活動の推進

観光ニーズの多様化、高度化、広域化に対応するため、SNS や情報メディアを活用し、幅広い年代層や多様な観光需要に対応した観光誘客活動を展開し、効果的に木島平村の魅力発信を行います。

⑤ 交流活動の推進による関係人口の創出

歴史や自然、文化など村の特色について村民の認識を高めるとともに、村外へ広く PR するなど村の情報発信と人の輪の広がりを推進し、関係人口の創出を目指します。

⑥ インバウンド需要への対応・対策の検討

SNS をはじめとするさまざまな情報ツールを効果的に活用するとともに、近隣市町村と連携した広域的な観光コンテンツ提供や受入れ体制の充実（キャッシュレス化）に取り組めます。

【基本目標③】多様な産業が活力を生み出す

3-2 商工業の振興と新しい産業の創出

● めざす姿

地域に根差した産業が継続し、新たな事業にチャレンジしやすい環境が整い、事業や雇用が生まれ地域が活性化しています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
新規創業数	1件 (H27~30)	3件 (R元~4)	8件 (R7~10)	商工観光係
商工会会員数	—	105人	105人	商工観光係

● 取組

① 中小企業支援

商工会や関係機関と連携し、個人事業主や中小企業の課題に応じた支援と、事業の継続支援を実施し、活性化を図ります。

② 起業・創業・事業承継の支援

商工会や関係機関と連携し、創業希望者に対する相談体制の充実や各種補助制度の情報提供に努めるとともに、創業しやすい環境づくりを進め、若者や女性に対してよりスムーズに事業が実施できるよう支援します。また、事業承継が可能な事業者への支援を行います。

【基本目標③】多様な産業が活力を生み出す

3-3 地域資源を活用した特産物のブランド化

● めざす姿

ブランド化により、生産者の所得向上など経済の好循環が生まれるとともに、村全体のイメージアップが図られ、村民の村に対する誇り、愛着が高まっています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
米・食味分析鑑定 コンクール入賞者数	8件/年	5件/年	5件/年	産業企画係
ふるさと納税寄付額	44,514千円/年	58,992千円/年	120,000千円/年	産業企画係
特産品開発推進奨励 補助金	1件/年	0件/年	1件/年	産業企画係
地域資源のブランド品目	なし	2	4	農林係
JA 振興作物の栽培面積	—	アスパラガス 7 ha ズッキーニ 9 ha 夏秋きゅうり 1 ha 白ネギ 3 ha	アスパラガス 10 ha ズッキーニ 10 ha 夏秋きゅうり 3 ha 白ネギ 5 ha	農林係

● 取組

① 地域資源のブランド化

独自（地に合った）栽培法による品質・食味向上など差別化ができる特長やポイントを明確化し、統一した品質基準を確立することで消費者に分かりやすいプロモーション及びマーケットの拡大を図ります。

② **新たな振興作物の導入**

気候を活かした新たな作物や軽量作物の導入など農家の安定生産と作業性を踏まえた支援策を展開します。また、雪国〇〇など付加価値を高めた新商品の開発・普及に努めます。

③ **ブランド米生産の振興**

食味を重視した栽培管理と異常気象に負けない米づくりを実践することで、トップブランドにふさわしい食味・品質を確保し、更なるブランド力強化を推進します。

④ **農産物のプロモーション強化**

姉妹都市調布市を核に生産者と連携した農産物のプロモーションに取組み、消費者の認知度を高め、需要を喚起し、これと合わせた生産拡大を推進します。

⑤ **6次産業化の推進**

農林水産業者の6次産業化の取組を支援するとともに、食品関連事業者など多様な事業者とのマッチングを支援し、農林水産物の高付加価値化、特産品の開発に取組みます。

⑥ **ふるさと納税制度を活用した産業振興**

返礼品事業者を対象とした研修会を開催し、寄附者ニーズに即した新規返礼品を追加する。また、寄附者に対して、単に返礼品を送る行為だけで完結させず、四季ごとの村の情報をお届けするなどしてリピーターの獲得を目指す。

【基本目標③】多様な産業が活力を生み出す

3-4 農業の振興

● めざす姿

農地の集積・新技術の導入による効率的な農業の展開や、若手農業者等と連携した多様な農業ビジネスの創出により、地域農業の活力が生み出されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
農業生産額	—	米 47 千万円 野菜 33 千万円 酪農 29 千万円 (R3)	米 50 千万円 野菜 35 千万円 酪農 30 千万円	農林係
農地集積率	—	34.5%	60.0%	農林係
遊休農地面積	—	101 ha	90 ha	農林係

● 取組

① 有機の里づくり

堆肥センターを活用した地域循環型農業を展開することで、環境にやさしい農業の拡大と安心安全な木島平ブランドの強化を図ります。

② 多様な担い手確保

新規就農者の経営支援とともに就農希望者による農業ヘルパーを地域一帯で育成することで多様な人材を確保します。

③ 優良農地の保全

そば・大豆生産や緑肥による荒廃化抑制など再生可能な農地を守ることによって新規就農者や担い手への斡旋、農地集約による有効活用を図り、優良農地の保全に努めます。

④ 農地の再生

簡易ほ場整備や水路改修など事業化に向けてサポートをすることで農地再生に努めます。

⑤ 有害鳥獣対策

電気柵の推進とともに猟友会と協力し、鳥獣被害を未然に防ぐことで農家の耕作意欲に繋がります。

⑥ スマート農業の展開

先端技術を活用したスマート農業の導入支援により作業の省力化と効率化による生産性の向上と労働力不足の解消を図ります。

【基本目標③】多様な産業が活力を生み出す

3-5 森林の活用

● めざす姿

民有林の整備や森林環境教育を進めることで、森林資源が持続的に活用されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
森林整備面積	—	18.5ha	80ha	農林係

● 取組

① 森林資源の循環

森林整備と間伐材の活用による資源循環型林業を展開することで山の再生と意識の高揚を図ることで林業振興に努めます。

② 森林環境教育の推進

木育事業はじめ、子どもから大人まで木に触れる機会や楽しめる活動を展開することで森林に対する意識の高揚を図ります。

地域連携コーディネーターによる森林環境教育及び木材加工などの授業を小学校、中学校の協力を得ながら実施します。

③ 100年先の森づくり

民間企業と村民が連携し、カヤの平牧場跡地をブナの森に返す「ブナの森づくり」を更に展開します。また、新たに姉妹都市と連携した植樹ツアーなど事業の拡大を図り、森の再生化に努めます。

【基本目標④】 自然と調和し安心して暮らせる

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-1 安全で円滑な交通インフラ整備の推進

● めざす姿

村内の道路ネットワークの適切な維持管理と乗客のニーズに応じた効率的な交通環境の整備を図り、持続可能な社会基盤が確保されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
デマンドバス利用者数	6,380 人/年	5,144 人/年	6,700 人/年	農村整備係
シャトル便利用者数	2,656 人/年	4,201 人/年	6,300 人/年	農村整備係

● 取組

① 道路整備と交通確保の推進

生活道路の安全を確保するため、道路・河川の機能保全と適正な管理を行います。また、子供や高齢者など歩行者の交通安全の確保を図るため、国県道の歩道を含めた道路環境の改善にいて、道路管理者と連携して取り組みます。

② デマンド交通及びシャトル便の交通制度の改善

村内における交通弱者の移動手段を確保するため、デマンド交通及びシャトル便の運行及び利用者のニーズに応じた利便性の向上に取り組み、誰もが安心して暮らせる交通環境を目指します。

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-2 誰もが安心して暮らせる村づくり

● めざす姿

各地区で自主防災組織を組織し機能を充実させ、高齢者をはじめ地域の誰にも支援が届く地域支え合い体制が整備されています。また、除雪作業の軽減や重要なライフラインである上下水道事業の安定した運営により、村民の安心と安全が確保されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
自主防災組織数	9 団体	11 団体	20 団体	総務係
克雪住宅補助件数	(H27~30) 融雪型 0 件 自然落雪型 4 件 雪下ろし型 0 件	(R1~4) 融雪型 1 件 自然落雪型 3 件 雪下ろし型 2 件	(R7~10) 10 件	農村整備係

● 取組

① 各地区での自主防災組織の整備・充実

地区ごとの自主防災組織の整備、内容の充実化を図り、万が一の災害に備えます。

② 住宅等克雪化の普及推進

住宅や物置の雪下しの負担軽減及び作業中の転落事故を防止するため、克雪化改修に係る費用に対して一部補助金を支給します。また、補助金の啓発と併せて、作業の安全確保等についても周知し、住宅等の除排雪の負担軽減、安全確保の取組を進めます。

③ 上水道事業の安定運営

耐用年数を経過した水道管の更新を進めるとともに、大規模災害時の給水確保対策を進めます。

④ 下水道事業の安定運営

下水道事業計画の下、現行施設の処理能力や将来的に必要な処理能力を検証します。また、長寿命化計画や個別施設計画に沿った更新工事を実施し、安定した汚水処理を図ります。

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-3 情報発信の強化

● めざす姿

様々なツールを活用し、誰もが分かりやすく、見つけやすい情報が発信できています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
村公式ウェブサイトの訪問者数	135,918 人/ 年 ※全ページを 対象	55,670 人/年	70,000 人/年	政策情報係
村公式 LINE 登録者数	—	1,347 人	2,500 人	政策情報係

● 取組

① 災害情報伝達経路整備

CATV を始め、ウェブサイト、SNS、緊急防災メールなどの非常災害時の情報発信手段の複層化を図ります。

② 魅力ある情報発信の強化

ウェブサイトやSNSだけでなく、時代のニーズに合わせて様々な情報発信手段により、村外向けに村の魅力を PR します。

③ 住民への的確な情報発信

分かりやすい広報誌の発行や、CATV を通じた地域に密着した情報発信の他、ウェブサイトや SNS 等様々な手段を用いて迅速かつ確実な情報提供を目指します。

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-4 移住定住の促進

● めざす姿

移住定住施策を充実させることにより、転出者が減り、転入者が増えています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
移住相談を通じて移住した 世帯数	—	6世帯 (R4調査開始)	25世帯 (R7～R10)	移住定住推進係
賃貸住宅建設戸数	2戸 (H27～30)	1戸 (R1～4)	12戸 (R7～10)	農村整備係

● 取組

① 村営住宅等の利活用

村営住宅の適切な維持管理、民間集合賃貸住宅の建設促進や新たな村営住宅の建設など、単身世帯から子育て世帯向けへ安定した住宅供給が行える取組を進めます。

② 体験住宅を活用した村の魅力発信

木島平村の四季の暮らしや楽しみ、先輩移住者の暮らし方など、移住後の暮らしがイメージできるような情報を発信することで木島平村への移住を促進します。

③ 移住促進プロモーション

新たに住んでもらうという観点（移住）と、住み続けてもらうという観点（定住）に加え、二地域居住のような一定期間を村で暮らす提案を含め、移住定住促進プロモーション

ンを展開し、木島平村の認知度を高め、定住人口・交流人口の増加を図ります。

④ 若者の定住に繋がる住宅支援

次世代を担う若者の定住を促進するために、住宅に関する支援事業の充実を図ります。

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-5 空き家対策の推進

● めざす姿

空き家の利活用と流動化を進めることで、地域の安心・安全と農村の原風景が守られています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
年度末の空き家バンク登録率 (空き地を除く)	—	5.3%	8%	移住定住推進係
空き家バンク成約件数	19件 (H27～H30)	25件 (R1～R4)	30件 (R7～R10)	移住定住推進係

● 取組

① 空き家の把握と利活用の促進

区と連携した空き家の早期把握に努めるとともに、所有者に対し適正管理と空き家バンクを通じた利活用を促します。

② 空き家の解体促進と空き地の有効活用

利活用の難しい空き家の解体撤去を促し、管理不全空き家等の発生抑制と新築用地として空き地の流動化を図ります。

③ 空き家の発生予防と抑制

空き家予備軍に対する相談体制の強化を図り、生前からの空き家対策を促します。

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-6 地球温暖化防止対策の推進

● めざす姿

村民全員が地球温暖化に対して関心を持ち、自分の出来ることから取り組むことで、木島平村地球温暖化対策実行計画のCO₂削減目標が達成されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
温室効果ガスの削減量 (区域)	平成25年度比 19.44%減	現時点で実績値 未公表	平成25年度比 45%減	政策情報係
温室効果ガスの削減量 (事務)	—	令和2年度比 17.65%減	令和2年度比 25%減	政策情報係

● 取組

① 小水力発電事業の推進

木島平村の豊富な資源の一つである「水」を活用し、再生可能エネルギーを創出し、地球温暖化防止に努めます。

馬曲川発電所の適正な運営のほか、民間事業者での小水力発電所の設置については、積極的に協力をしていきます。

② ゼロカーボンの推進（公共）

公共施設への太陽光発電設備設置の推進のほか、公用車の環境配慮車両への更新、デジタル技術を活用した資料等のペーパーレス化等各種業務の効率化を図り、地球温暖化防止に努めます。

③ ゼロカーボンの推進（地域）

世界的な課題となっている地球温暖化に対して、木島平村としても、積極的に取り組む必要があります。

木島平村地球温暖化対策実行計画に基づき CO₂排出量の削減目標を達成するため、村民一人一人が地球温暖化を自分事を感じてもらおうよう、意識醸成を図っていきます。

【基本目標④】自然と調和し安心して暮らせる

4-7 環境保全とごみ減量化・リサイクルの推進

● めざす姿

環境保全に対する意識や関心が高まることにより農村の原風景が守られ、ごみの削減や再資源化が促進され、環境への負荷が抑えられています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
1人あたりの可燃ごみ 排出量（年間）	150kg	152kg	145kg	生活環境係

● 取組

① ごみ減量化とリサイクルの推進

ごみ減量化及び資源化に向けて、広報誌やCATV等による啓発及び生ごみ処理機器等の購入に対する補助を行います。また、ごみの分別状況の確認のため、ごみの組成調査を行い、リサイクルの推進に活用します。

② 農村の景観保護と環境保全の推進

在来種を脅かす特定外来植物の早期駆除が図られるよう、広報誌やCATVを通じて啓発を行います。

また、不法投棄の早期発見、未然防止のため、定期的なパトロール及び全村一斉環境保護行動を行います。

【基本目標⑤】 持続可能な村をともに創る

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-1 持続可能な集落活動の推進

● めざす姿

集落と行政の役割を見直し、時代の流れに対応した地区づくりを支援することで、集落活動の持続性が確保されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
「集落内の共同作業や活動への村民の参加状況」で「半数以上の人が参加している」割合 (村民アンケート)	59.4%	15.6%	50%	政策情報係

● 取組

① 地区づくりの推進

地区づくり推進員を各区に配置し、地区づくり計画を推進するとともに地区の活動を支援します。

② コミュニティ活動の支援

コミュニティ助成事業や各種支援金制度を活用し、地区の活動を支援します。

③ 持続可能な集落活動の支援

地域での負担を感じることなく生活ができるように、集落支援員制度等を活用し、誰もが参加しやすい地域づくりを推進します。

④ 分館の改修

地区集会所における平常時の利用者の安全確保と災害時の拠点施設としての機能確保を図るため、地区集会所の建設費に対する経済的支援を行い、持続可能な集落活動を行います。

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-2 人権が尊重される村づくりの推進

● めざす姿

同和問題をはじめとする、あらゆる差別の解消を進めることで、村民の人権が尊重される社会が実現されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
各分館での人権同和教育学習会の実施地区数	11 地区	9 地区	26 地区	人権推進室

● 取組

① 人権擁護に関する総合計画との連動

人権擁護に関する総合計画及び人権施策推進指針に基づき、地域全体で取組むという観点から家庭、保小中高、地域の連携を確立します。

② 人権センター事業の実施

人権センターの各事業の推進を行います。

③ 相談窓口の充実

気軽に立ち寄れる窓口を整備します。

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-3 村民とともに進める村づくり

● めざす姿

行政は地域と連携しながらサポートすることで、村民が主体となった村づくりが進められています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
地区づくり懇談会参加者数	176 人/年	17 人/年	230 人/年	政策情報係

● 取組

① 村民との対話と協働

地区づくり懇談会の開催等により、村民と村が協働しむらづくりを進めます。

② 村民が主体となった村づくりの支援

地域の課題解決に向け、村民が主体となった村づくりを支援します。

③ 男女共同参画の推進

男女共同参画社会の実現を目指し、女性だけでなく、多くの意見やアイデアを参考に村づくりを進めます。

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-4 時代に適合した行財政運営の推進

● めざす姿

中長期的な視野に立った計画的な行財政運営を進めることで、減少する人口規模や世代ごとのニーズに見合った、効率的かつ持続的な行政サービスの提供ができています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
公共施設等総合管理計画の整備	H29.3月策定	R4.3更新	R8.3月更新予定 (行政関係施設：R18年度末までに床面積5%減)	総務係

● 取組

① 公共施設等総合管理計画の推進

公共施設等総合管理計画に基づいた適切な管理と、少子高齢化社会において、施設の更新や見直しの際には、将来的な財政負担を十分考慮し、計画を見直します。

② 各種行政手続きの簡素化・利便性の向上

各種行政手続きについて、マイナンバーカード等を活用したオンライン化を推進し、住民の利便性と業務の効率化を図ります。

③ 健全な財政運営

財政分析を進め、長期的な視野に立った計画的な財政運営に努めるとともに、国・県補助金の積極的な活用により、財政負担の軽減を図ります。

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-5 姉妹都市「調布市」との交流促進

● めざす姿

姉妹都市「調布市」との交流を促進し、両市村民が互いを身近に感じられるよう様々な事業を展開することで、本村の魅力や活力が生み出されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
連携事業数	8事業/年	8事業/年	10事業/年	政策情報係

● 取組

① 調布・木島平交流クラブ及び姉妹都市交流調布友の会の事業の推進

調布・木島平村交流クラブ及び姉妹都市交流調布友の会の事業を通して、住民がお互いを身近に感じられるよう事業を推進します。

② 姉妹都市職員交流の推進

職員間の交流を促進し、姉妹都市交流がより一層の発展するよう努めます。姉妹都市交流推進員を調布市に派遣し、姉妹都市交流を促進します。

③ 【再掲】農産物のプロモーション強化

姉妹都市調布市を核に生産者と連携した農産物のプロモーションに取組み、消費者の認知度を高め、需要を喚起し、これと合わせた生産拡大を推進します。

④ 災害対策の連携推進

調布市との災害援助協定を推進し、有事への備えを進めます。

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-6 関係人口の創出

● めざす姿

連携大学、友好都市をはじめ、多くの方に様々な事業を通じて木島平村を知ってもらうことで、関係人口の創出が図られています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
大学との連携事業数	3事業/年	4事業/年	6事業/年	政策情報係

● 取組

① 大学連携の推進

連携大学との事業を通じて、関係人口の創出とともに学生に木島平村に関心を持ってもらい、継続して来村してもらえる取組を推進します。

② 【再掲】交流活動の推進による関係人口の創出

歴史や自然、文化など村の特色について村民の認識を高めるとともに、村外へ広くPRするなど村の情報発信と人の輪の広がりを推進し、関係人口の創出を目指します。

【基本目標⑤】持続可能な村をともに創る

5-7 下高井農林高校との連携

● めざす姿

下高井農林高校の特色ある活動を活かすとともに、村との連携・交流を推進することで、相互の魅力や活力が生み出されています。

● 目標値

目標指標の内容	実績値 (H30)	実績値 (R4)	目標値 (R10)	担当
農林高校との連携事業数	5事業/年	8事業/年	10事業/年	政策情報係

● 取組

① 下高井農林高校との連携の推進

特色ある下高井農林高校の活動の輪を広げ、魅力を発信する支援をするとともに、高校生のアイデアや力を村づくりに取り入れていきます。

地域連携コーディネーターによる、下高井農林高校と保育園、小・中学校及び多世代との連携・交流を推進し、魅力を発信していきます。

【4】計画の進捗管理および検証

毎年度実施する事務事業評価において、施策ごとに設定した達成目標とともに取組の成果と課題を検証します。また、取組に紐づく事業の見直しを機動的かつ柔軟に行います。

後期基本計画策定に向け、前期基本計画終期には、計画策定に関与した「第7次総合振興計画策定委員会」において、計画の成果と課題を検証します。